

平成27年度 業務実績報告書

平成28年6月  
愛知県公立大学法人

## 法人の概要

### (1) 現況

#### ① 法人名

愛知県公立大学法人

#### ② 設立年月日

平成19年4月1日

#### ③ 所在地

長久手市茨ヶ廻間1522番3

#### ④ 役員の状況

理事長 鮎京 正訓

副理事長 2名

理事 3名

監事 2名

#### ⑤ 設置大学

・愛知県立大学

(学部)

外国語学部、日本文化学部、教育福祉学部、看護学部、情報科学部

(研究科)

国際文化研究科、人間発達学研究科、看護学研究科、情報科学研究科

(全学教育研究組織)

入試・学生支援センター、教育支援センター、教養教育センター、

学術研究情報センター、地域連携センター、看護実践センター

・愛知県立芸術大学

(学部)

美術学部、音楽学部

(研究科)

美術研究科、音楽研究科

(全学教育研究組織)

芸術教育・学生支援センター、芸術創造センター、芸術情報センター、芸術資料館

#### ⑥ 学生数（平成27年5月1日現在）

・愛知県立大学（新・旧）

学部学生 3,283名

大学院学生 219名

・愛知県立芸術大学

学部学生 811名

大学院学生 170名

#### ⑦ 教職員数

(教員)

・愛知県立大学 220名

・愛知県立芸術大学 87名

(職員)

・法人事務局 186名

## (2) 大学の基本的な目標等

### ① 愛知県立大学

愛知県立大学は、平成 21 年 4 月に当時の愛知県立大学と愛知県立看護大学を統合し、「豊かな人間性と高い知性を備え、かつ、国際性、創造性及び実践力に富む有為な人材を育成する」ことを目指した新愛知県立大学としてスタートした。現在は、長久手キャンパスと守山キャンパスを合わせて 5 学部 10 学科と大学院 4 研究科から構成されている。

#### ○ 愛知県立大学の理念

- 1 21 世紀の「知識基盤社会」において、教員と学生が相互に啓発し合いながら「知の拠点」を目指す。
- 2 「地方分権の時代」における公立の大学として、良質の研究とそれに裏付けされた良質の教育を行い、その成果を社会に還元する。
- 3 「成熟した共生社会」の実現を目指して、教育研究と地域連携を進める。

### ② 愛知県立芸術大学

芸術は、太古から人間の暮らしに潤いを与え続け、常に人間の歴史とともにあった。人間は、芸術によって、自己を革新し、硬直する人間の思考を柔軟なものにしてきた。そして、優れた芸術は人間に知的な飛躍をもたらすものである。

愛知県立芸術大学は、独自の豊かな文化・芸術の伝統が育まれてきた愛知県に創設された「芸術の場」であり、当地域の芸術文化を育み、県内外に発信していくことが求められている。そのために本学は、開学以来培ってきた歴史を継承し、さらに発展させていく必要がある。

愛知県立芸術大学は、個性的で魅力ある大学として、また、愛知が生んだ芸術文化の拠点として、地元愛知はもとより国際的にも開かれた芸術文化の核となることを目指し、大学の理念を次のとおりとする。

#### ○ 愛知県立芸術大学の理念

- 1 学部から大学院までの一貫した教育研究体制をとることにより、芸術家、研究者、教育者など芸術文化に携わる優れた人材の育成を目指す。
- 2 広い視野を持った高度な芸術教育を通して、国際的な芸術文化の創造の核となることを目指す。
- 3 教育・産業・生活文化など様々な分野で本学の持つ芸術資源を有効に活用し、地域社会と連携して、芸術文化の発展に貢献することを目指す。

## 全体的な状況

### ○ 法人の総括と課題及び特記事項

第2期中期計画3年目となる今年度は、中期計画88項目について取り組んだ結果、教育研究活動をはじめ2大学の管理運営全体について、順調に年度計画を実施した。なお、大項目ごとの特記事項は、以下のとおりである。

#### 1 大学の教育研究等の質の向上

##### 1-1 愛知県立大学

###### (1) 教育

- 入学者選抜
  - ・外国語学部を引き続き、看護学部にも全国枠推薦入試の導入を決定（28年度入試～）
  - ・オープンキャンパスのプログラム等の工夫により、過去最多の来場者数を記録
  - ・外国語だけで過ごす「イメージ合宿」や各学部単位のミニオープンキャンパスの実施
- 学部・大学院教育
  - ・教養教育新カリキュラムの検証・評価のための科目群会議を開催
  - ・英語授業の受講学生や英語担当教員向けの授業用ホームページの開設
  - ・全学学生を対象とした英語・諸言語のe-Learningのガイダンス・講習会の実施
  - ・「愛知人文社会ルネッサンス」と称した学部プロジェクトの立ち上げ（日本文化学部）
  - ・時代を先取りした設備を備えた「次世代ロボット研究所」の建設（情報科学部）
  - ・学部・大学院との一貫した実践型教育に向け、第一線の通訳実務者を採用、「通訳翻訳研究所」の設立を決定（国際文化研究科）
  - ・生涯発達研究所事業、スクールソーシャルワーク教職員研修等における教育と福祉両分野の専任教員協働による取組の推進（人間発達学研究科）
  - ・博士後期を2年で早期修了した女性初の内部進学による博士学位取得者の誕生（情報科学研究科）
- 学生への支援
  - ・図書館内にグループ学習コーナーを整備
  - ・新たに名古屋市交通局との連携による学生自主企画研究テーマを決定
  - ・国内外の大学との学生交流プログラム「天の川プロジェクト」の実施
  - ・新たに米国の非営利教育機関SAFを含む3つの大学・機関との協定を締結
  - ・地元優良企業を中心に学校推薦による就職枠を増加（H26:4件→H27:12件）
  - ・学生の主体的な学びを促すための奨学制度「はばたけ 県大生」を新設

###### (2) 研究

- ・学長特別教員研究費による研究支援の継続実施
- ・研究者データベースの運用開始
- ・外部コンサルタントによる科研費申請支援の実施（申請率H26:88.8%→H27:89.3%）

###### (3) 地域連携・貢献

- ・愛知県教育委員会との高大連携事業「知の探究講座」の実施
- ・名古屋市立大学との連携による公開講座の開催
- ・認定看護師教育課程、看護職を対象とした研修会・個別指導の実施
- ・「医療分野ポルトガル語・スペイン語講座」が「平成28年度職業実践力育成プログラム」に認定

##### 1-2 愛知県立芸術大学

###### (1) 教育

- 入学者選抜
  - ・28年度より新たに総括係の設置を決定し、全学広報の体制を強化
- 学部・大学院教育
  - ・アーティスト・イン・レジデンス事業による学生への専門・実技教育等の実施
  - ・「特別講座」・「試演会」など新音楽学部棟の新環境を活かした実践的な講座の拡充
  - ・美術研究科における副指導教員の配置を決定
- 学生への支援
  - ・新たに留学ガイドブックを作成
  - ・県内芸術系6大学による「芸術学生のための合同企業説明会」の実現（41社、学生411名参加（うち愛知芸大131名））
  - ・障害者差別解消法を踏まえ、学生相談支援要員1名を新たに配置
  - ・奨学寄附金により学生の海外渡航を支援する新たな制度を創設

###### (2) 研究

- ・名古屋フィルハーモニー交響楽団との協定締結による美術・音楽両分野での相互交流を新たに実施
- ・芸術活動の発信と50周年事業の財源拡充のため、本学初の取組となる”愛芸50オークション”を開催（来場者336人（7日間）、落札総額約1,400千円）
- ・科学研究費補助金及びその他の助成金の申請件数が大幅に増加（H26:25件→H27:49件）

###### (3) 地域連携・貢献

- ・一般財団法人神戸財団との共催によるセラミックデザインコンペティションを企画、運営
- ・あいちトリエンナーレ2016芸術大学連携プロジェクトとして名古屋芸術大学、名古屋造形大学との三大学合同展覧会等を実施
- ・創立50周年記念事業に向けた演奏会・展覧会等の企画
- ・文化財保存修復研究所の竣工（11月）、研究所による一般向け講座の開催

##### 2 法人運営の改善

- ・法人化後初の取組として、全事業に対する事業計画書の提出依頼、全部署・教員へのヒアリングを行い、財源捻出、重点事業への再配分を実施
- ・「職員英語力向上制度」による講座（5名）や短期海外研修（4名、中国・モンゴル・タイ）の実施
- ・27年度重点方針・チャレンジ計画発表会を3キャンパスで開催

### 3 財務内容の改善

- ・「愛芸50オークション」等の実施により“愛芸50基金”の27年度末時点寄附金総額は累計約56百万円に到達
- ・受託研究費や科学研究費補助金等を含めた外部資金の獲得

[単位：件／千円]

区分	年度	県立大学		芸術大学	
		件数	金額	件数	金額
奨学寄附金 (利子含む)	25	9	11,600	6	4,205
	26	12	12,901	293	39,453
	27	11	9,200	426	36,421
受託研究費	25	1	210	4	6,666
	26	3	4,492	8	11,410
	27	5	5,446	10	12,139
共同研究費	25	12	9,823	1	5,000
	26	13	11,713	1	4,482
	27	12	11,090	1	2,500
科学研究費 補助金等	25	153	167,202	8	7,969
	26	155	143,373	9	13,866
	27	149	130,071	11	13,433
受託事業費等	25	3	1,782	7	4,168
	26	2	2,995	13	13,523
	27	3	3,556	11	13,997
その他補助金	25	4	86,441	0	—
	26	4	77,892	3	1,700
	27	5	67,976	10	3,540
計	25	182	277,058	26	28,008
	26	189	253,366	327	84,434
	27	185	227,339	469	82,030

注1) 科学研究費補助金等の金額については、当該年度の分担金相当額を含めた実受入金額とし、転出及び他機関へ送金する分担額は除く。

注2) 金額については、千円未満を切り捨て

### 4 自己点検・評価及び情報の提供

- ・産民学協働プロジェクト「あいちものづくり・学生共同プロジェクト」の推進（県大）、文化財保存修復研究所による一般向け講座の実施（芸大）
- ・創立50周年記念事業の企画、「愛芸50オークション」、ホームカミングデーの実施（芸大）

### 5 その他業務運営

- ・耐震改修・機能回復整備工事の開始、新デザイン棟の基本設計への協力（芸大）
- ・教室の有償貸出の試行、本格実施に向けた検討開始
- ・障害者雇用促進のため、「業務支援室」を新たに設置（7月、7名（リーダー1名含む）雇用）
- ・情報リテラシー講習会やeラーニングによる情報リテラシー研修の実施

項目別の状況

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 愛知県立大学

(1) 教育に関する目標

中期目標	<p>ア 入学者選抜 アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づき、地域社会や国際社会において活躍する資質を備えた質の高い入学者を確保する。</p> <p>イ 学部教育 (ア) 教養教育においては、自ら課題を探究し、広い視野で柔軟かつ総合的に判断し解決することのできる能力や、他者の文化を理解・尊重し、コミュニケーションをとることのできる能力、語学力など、グローバル化や情報化等に適応しうる「学士力」の基礎を涵養する。 (イ) 専門教育においては、時代や社会の要請に的確に対応し、各学部・学科の人材養成の方針に沿って、カリキュラム等を含めた教育体制の個性化や、教育内容の最新化・体系化を図ることにより、それぞれの専門分野における知識・スキルや創造的思考力を備えた人材を育成する。 (ウ) 自己点検・評価、学生評価、外部評価等に基づくファカルティ・ディベロップメントを通じて、教員の教育力の向上を図る。 (エ) 学生の主体的・積極的な学びを促し、学修力の向上を図る。</p> <p>ウ 大学院教育 各研究科の養成する人材像を明確にし、その特性を踏まえた教育内容・方法の充実に取り組み、高度専門職業人や研究者等、知識基盤社会の中核となる人材を育成する。</p> <p>エ 卒業認定 卒業生と修了生の質を保証するため、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）を、時代や社会の変化に対応して適切に見直し、適正な成績評価基準により卒業認定を行う。</p> <p>オ 学生への支援 学生の学習環境の整備や、地域貢献活動・国際交流、キャリア形成、健康管理、経済的な支援などを通じて、学生の学ぶ意欲を高めるとともに、安心して修学を継続できるようにする。</p>
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
ア 入学者選抜 1 アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）について、時代や社会の変化に対応するよう、適切に見直す。	・アドミッション・ポリシーをホームページなどで公表する。また、新入学者選抜制度に向けたアドミッション・ポリシーの見直しを検討する。	「年度計画を十分に実施している」 ・昨年度に引き続きホームページ・大学案内等にて現状のアドミッション・ポリシーを公開するとともに、ワーキンググループによる新入学者選抜制度に向けたアドミッション・ポリシーの見直しの検討を開始した。	
2 出願状況や入試結果の分析を通じて入学者選抜方法の見直しを行うことによって、質の高い入学者を確保する。	・出願状況や入試結果の分析を通じて、入学者選抜方法及び募集人員の見直しを行う。	「年度計画を十分に実施している」 ・全国卒推薦について、すでに導入済みの外国語学部につき、看護学部においても、28年度入試より大学入試センター試験を課す全国卒推薦の導入を決定した。また、30年度入試からの情報科学部推薦入試における英語外部試験の導入を決定した。  [データ集1・2]	

<p>3 目的意識や学習意欲の高い学生を確保するため、各種メディアの活用など戦略的な入試広報計画を策定し実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種メディア、ガイダンスを活用し、入試広報計画に基づき、対象地域を見直した上、広報活動を実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝日新聞の大学ランキングタイアップ企画への掲載や新たにバナー広告に取り組むなど各種メディアによる広報活動を実施するとともに、進学ガイダンスについては、対象地域を見直した上で、地方会場での開催6件を含む計36件を実施した。また、オープンキャンパスについては、コース制を個別予約や自由参加中心のプログラムへと変更するなど、幅広い参加を促すよう工夫した結果、過去最多の5,162名が来場した。さらに、外国語だけで2日間を過ごす「イマージョン合宿」[参考資料1]や新たな取組として各学部単位のミニオープンキャンパスを実施するなど(参加者総数：58名)、高校生等に向けた大学体験の機会を充実させた。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1071 611 1979 1325"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度 (26年度入試)</th> <th>26年度 (27年度入試)</th> <th>27年度 (28年度入試)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス(OC)</td> <td>3,813名</td> <td>4,089名</td> <td>5,162名</td> </tr> <tr> <td>入学者アンケートにおけるOC参加者の割合</td> <td>45.4%</td> <td>49.0%</td> <td>51.7%</td> </tr> <tr> <td>高校からの大学見学</td> <td>26件 1,321名</td> <td>32件 2,343名</td> <td>32件 1,899名</td> </tr> <tr> <td>高校への出張ガイダンス・模擬授業等</td> <td>37件 1,390名</td> <td>39件 1,833名</td> <td>50件 1,870名</td> </tr> <tr> <td>学外での進学ガイダンスへの参加 (うち地方会場)</td> <td>20件 1,093名 (-)</td> <td>25件 1,247名 (5件、34名)</td> <td>36件 1,528名 (6件、54名)</td> </tr> <tr> <td>大学祭中の個別入試相談会</td> <td>62名</td> <td>56名</td> <td>49名</td> </tr> <tr> <td>入学志願者合計 (大学院含む)</td> <td>3,197名</td> <td>3,337名</td> <td>3,353名</td> </tr> <tr> <td>(うち一般入試前期日程)</td> <td>(1,953名)</td> <td>(1,952名)</td> <td>(1,864名)</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度 (26年度入試)	26年度 (27年度入試)	27年度 (28年度入試)	オープンキャンパス(OC)	3,813名	4,089名	5,162名	入学者アンケートにおけるOC参加者の割合	45.4%	49.0%	51.7%	高校からの大学見学	26件 1,321名	32件 2,343名	32件 1,899名	高校への出張ガイダンス・模擬授業等	37件 1,390名	39件 1,833名	50件 1,870名	学外での進学ガイダンスへの参加 (うち地方会場)	20件 1,093名 (-)	25件 1,247名 (5件、34名)	36件 1,528名 (6件、54名)	大学祭中の個別入試相談会	62名	56名	49名	入学志願者合計 (大学院含む)	3,197名	3,337名	3,353名	(うち一般入試前期日程)	(1,953名)	(1,952名)	(1,864名)	
区分	25年度 (26年度入試)	26年度 (27年度入試)	27年度 (28年度入試)																																				
オープンキャンパス(OC)	3,813名	4,089名	5,162名																																				
入学者アンケートにおけるOC参加者の割合	45.4%	49.0%	51.7%																																				
高校からの大学見学	26件 1,321名	32件 2,343名	32件 1,899名																																				
高校への出張ガイダンス・模擬授業等	37件 1,390名	39件 1,833名	50件 1,870名																																				
学外での進学ガイダンスへの参加 (うち地方会場)	20件 1,093名 (-)	25件 1,247名 (5件、34名)	36件 1,528名 (6件、54名)																																				
大学祭中の個別入試相談会	62名	56名	49名																																				
入学志願者合計 (大学院含む)	3,197名	3,337名	3,353名																																				
(うち一般入試前期日程)	(1,953名)	(1,952名)	(1,864名)																																				
<p>イ 学部教育</p> <p>4 教養教育センター(学士力を涵養することを目的とし、外国語科目、教養科目、キャリア科目、スポーツ科目等を企画運営する)を設置して責任体制を構築し、教養教育に関する企画・運営を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修状況を把握しつつ、教養教育を円滑に、かつ効果的に運営する。</li> <li>外国語科目委員会、教養科目委員会の機能の明確化を図る。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度までの履修状況等を踏まえ、履修登録の方法、スケジュールについて、ガイダンス、リーフレット、UNIPA(※)等での周知を徹底し、学期開始時の希望者多数科目の抽選や履修者数に応じた教室決定の円滑な実施に努めた。 (※UNIVERSAL PASSPORT：大学内の様々な情報を提供する学生向けポータルサイト)</li> <li>教養教育全体を見据えた企画・運営を行うため、教養教育センターの下に組織されていた4つの委員会を外国語科目委員会・教養科目委員会の2委員会体制に再編し、委員会規程の整備を行った。</li> </ul>																																					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムの教育内容を検証するため、科目群会議を開催するとともに、授業アンケート結果の分析・考察を行う。</li> <li>・図書館の教養教育用図書コーナーを充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員を対象とした教養教育FDにおいて、外国語科目委員会、教養科目委員会の委員が中心となって8つの科目群会議を開催し、26年度授業アンケートの分析等を踏まえ、2年目の教養新カリキュラムについて意見交換を行った。その結果、双方向性の授業は学生の評価が高く、より効果的に行うには少人数での実施が望ましいとの意見が挙げられたことから、教養科目における効果的な履修者数のあり方について引き続き検討していくこととした。(科目群会議の教員出席率 81.9%(163/199)) [参考資料2]</li> <li>・教員から提出されたリストに基づき、今年度教養教育科目のシラバスに記載されている参考図書、テキスト、推薦図書計 138 冊を購入し、教養教育図書のコーナーに配架した。</li> </ul>													
<p>5 グローバル人材育成の基盤として、ネイティブ教員の増員、外国語のみ使用可能な交流スペースの設置・活用などにより、全学部学生の英語力を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイティブ教員による英語授業を継続実施する。</li> <li>・CASEC 評点による教育効果測定を継続する。また、CASEC リーディングテスト実施の可能性を検討する。</li> <li>・iCoToBa の全学的な利用促進を図る。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・26年度に引き続き、ネイティブ教員が担当する英語クラスを約61%(96/158)開講した。また、英語教育をより効果的に行うため、教養教育センターに所属するネイティブ教員(4人)を中心とした英語担当教員の定期ミーティングや科目群会議の開催、受講学生や英語担当教員向けの授業用ホームページの開設などを行った。</li> <li>・4月に実施したCASEC(※)のスコアに基づき、学生の英語レベル(基礎、標準、上級)に応じたクラス編成を行った。CASECリーディングテストについては、複数の英語教員が試行した結果、出題内容や出題形式、試験時間が長時間になることなどの問題点が指摘されたため、現時点では導入を見送り、代替手段を含め引き続き検討することとした。 (※英語コミュニケーション能力判定テスト)</li> <li>・「学生生活に関するアンケート」結果も踏まえ、27年度より全学学生を対象とした英語及び諸言語のe-Learningのガイダンス・講習会を実施するとともに、全学開放のTOEIC検定試験対策講座や、外国人教員による個別相談を実施し、iCoToBa(多言語学習センター)の利用促進を図った。</li> </ul> <p>【iCoToBa(多言語学習センター)利用者数】</p> <table border="1" data-bbox="1071 1623 1887 1856"> <thead> <tr> <th></th> <th>延べ人数※</th> <th>1日平均 (8,9,2,3月除く)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>6,762人</td> <td>42人/日</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>8,592人</td> <td>54人/日</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>10,210人</td> <td>65人/日</td> </tr> </tbody> </table> <p>※留学生との交流会等イベント参加者数含む。</p>		延べ人数※	1日平均 (8,9,2,3月除く)	25年度	6,762人	42人/日	26年度	8,592人	54人/日	27年度	10,210人	65人/日	
	延べ人数※	1日平均 (8,9,2,3月除く)													
25年度	6,762人	42人/日													
26年度	8,592人	54人/日													
27年度	10,210人	65人/日													

<p>6 多文化共生社会等を実現するために必要な教養を涵養する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多文化共生社会に関連する教養科目（人間への洞察・共生社会のすがた・グローバルな多文化共生）を継続実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>51科目の教養科目のうち、引き続き多文化共生社会に関連する科目として37科目を開講するとともに、受講希望者の多い「多文化社会とコミュニケーション」を始め3科目については、開講数を1クラスずつ増やすことで対応した。</li> </ul> <p>[参考資料2]</p>													
<p>7 学生のキャリア形成支援を強化するための科目を充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育科目（キャリア・スキル、キャリア形成支援）を継続実施する。</li> <li>単位認定を伴うインターンシップを継続して実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9科目のキャリア教育科目を開講するとともに、受講者数に制限を設けている「日本語表現法」については、受講希望者多数のため、後期にも追加開講することとし、学生のニーズに対応した。</li> </ul> <p>[参考資料2]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単位認定を伴うインターンシップを実施し、67名が参加した。また、インターンシップ経験者8名による体験報告会を実施し、次年度以降にインターンシップに参加する予定の学生にも出席を促した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1074 814 1964 1003"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>単位認定を伴うインターンシップへの参加者数</td> <td>22名</td> <td>70名</td> <td>67名</td> </tr> <tr> <td>単位修得者数</td> <td>6名</td> <td>70名</td> <td>64名</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	単位認定を伴うインターンシップへの参加者数	22名	70名	67名	単位修得者数	6名	70名	64名	
	25年度	26年度	27年度												
単位認定を伴うインターンシップへの参加者数	22名	70名	67名												
単位修得者数	6名	70名	64名												
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部・学科の人材養成の方針とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に沿って、カリキュラムを含む教育体制の個性化や教育内容の最新化・体系化を図る。</li> </ul> <p>8 【外国語学部】</p> <p>学生のニーズに応じるために、専攻言語における実践的で高度な運用能力を身につけさせるコース、多様で急激に変化する国際社会に対応できる高度な専門知識を修得させるコースを設ける。また、主体的に行動し判断できる、国際社会や地域社会に貢献するグローバル人材を育成するために、留学制度を積極的に活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コース制及び新カリキュラム（26年度導入）を継続して実施するとともに、FDの実施などにより、カリキュラムを検証する。</li> <li>また、コース制、就職状況、留学などホームページで公開する方向で検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月より英米学科のEICコース(※)を12名（うち国際関係学科生2名）で、10月より中国学科の翻訳・通訳コースを20名でそれぞれスタートした。また、新カリキュラムに関するFDを2月に実施し、カリキュラムの検証を行うとともに、グローバル人材育成プログラム関連の非正規科目の取り扱いについて検討し、28年度より正規科目化することを決定した。学部ホームページのリニューアルを行い、コース制に基づく履修モデル、学科別の卒業生就職・進路先や、卒業生インタビュー報告、留学先大学一覧等を公開した。</li> </ul> <p>(※English for Intercultural Communication コース：高度で専門的な英語運用能力を養成するコース)</p> <p>[参考資料3]</p>													

・「グローバル人材育成推進事業」を推進し、海外協定校調査および「単位認定」留学の拡大を進める。

・TOEIC 検定の成績を引き上げるため、英語教育 FD や外国語授業改善研修会の実施を通して、Reading 能力の強化・向上を意識した授業改善を行うとともに、iCoToBa における検定試験対策講座の充実と受講の促進を図る。

・新たにリュネブルク・ロイファナ大学（ドイツ）を始め 2 大学と学術交流協定を締結するとともに、米国の認可非営利教育機関 SAF と留学業務に関する協定を締結した。また、米国を拠点とする国際教育交流団体による国際教育交流会議 NAFSA CONFERENCE2015 に推進室教員が出張し、各国関係者と情報交換を行った。27 年度「単位認定」留学者は 148 名（H26:121 名）に増加した。

[参考資料 6][データ集 10]

・「TOEIC 成績の現状と課題」をテーマとした英語教育 FD を実施するとともに、「専攻英語科目担当者の集い」及び「全学英語担当者の集い」と題し、2 回の外国語授業研修会を実施した。

・リーディング能力強化・向上のために英語用多読図書を拡充した。

・従来の TOEIC 検定試験対策講座に加え、今年度から新たに iCoToBa（多言語学習センター）における直前検定試験対策講座を全 10 回実施し、延べ 218 名が受講した。あわせて TOEIC 直前模擬試験も新たに実施し、24 名が参加した。

9 (指標) 英米学科卒業生の 7 割が TOEIC800 点の目標をグローバル人材育成推進事業の最終年度において達成することを目指す。

「年度計画を十分に実施している」

・TOEIC 対策講座の拡充や直前模擬試験の新たな実施、iCoToBa（多言語学習センター）の利用促進等様々な英語教育の充実を図ることにより、27 年度英米学科卒業生のうち、800 点以上獲得者の数が増加（H26:38 名（43.7%）→H27:47 名（42.0%））するとともに、700 点以上の高得点獲得者の人数・割合も、ともに増加した。（H26: 61 名（70.1%）→H27:84 名（75.0%））

・本項目の指標のターゲットとなる 25 年度英米学科入学生（28 年度卒業予定者）の TOEIC スコアは、グローバル人材育成推進事業の教育効果により、着実に得点分布が上昇している。

【英米学科卒業生 TOEIC スコア状況】

スコア	25 年度	26 年度	27 年度
800 点以上	44 人 (40.0%)	38 人 (43.7%)	47 人 (42.0%)
750～799 点	9 人 (8.2%)	8 人 (9.2%)	15 人 (13.4%)
小計 (750 点以上)	53 人 (48.2%)	46 人 (52.9%)	62 人 (55.4%)
700～749 点	11 人 (10.0%)	15 人 (17.2%)	22 人 (19.6%)
小計 (700 点以上)	64 人 (58.2%)	61 人 (70.1%)	84 人 (75.0%)
699 点以下	46 人 (41.8%)	26 人 (29.9%)	28 人 (25.0%)
計	110 人	87 人	112 人

\* 学内受験と学外受験を含めた数値

\* 9 月卒業含む

		<p>【25年度英米学科入学生(28年度卒業予定者)のTOEICスコア推移】</p> <table border="1" data-bbox="1071 233 1961 516"> <thead> <tr> <th>スコア</th> <th>25年11月</th> <th>26年12月</th> <th>27年12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>800点以上</td> <td>8人(7.2%)</td> <td>17人(15.3%)</td> <td>23人(20.9%)</td> </tr> <tr> <td>700～799点</td> <td>14人(12.6%)</td> <td>30人(27.0%)</td> <td>33人(30.0%)</td> </tr> <tr> <td>小計(700点以上)</td> <td>22人(19.8%)</td> <td>47人(42.3%)</td> <td>56人(50.9%)</td> </tr> <tr> <td>699点以下</td> <td>89人(80.2%)</td> <td>64人(57.7%)</td> <td>54人(49.1%)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>111人</td> <td>111人</td> <td>110人</td> </tr> </tbody> </table> <p>*学内受験のみ  ※699点以下には、スコア未確認者も含む。小数点第2位以下は四捨五入。</p> <p>[参考資料4]</p>	スコア	25年11月	26年12月	27年12月	800点以上	8人(7.2%)	17人(15.3%)	23人(20.9%)	700～799点	14人(12.6%)	30人(27.0%)	33人(30.0%)	小計(700点以上)	22人(19.8%)	47人(42.3%)	56人(50.9%)	699点以下	89人(80.2%)	64人(57.7%)	54人(49.1%)	計	111人	111人	110人	
スコア	25年11月	26年12月	27年12月																								
800点以上	8人(7.2%)	17人(15.3%)	23人(20.9%)																								
700～799点	14人(12.6%)	30人(27.0%)	33人(30.0%)																								
小計(700点以上)	22人(19.8%)	47人(42.3%)	56人(50.9%)																								
699点以下	89人(80.2%)	64人(57.7%)	54人(49.1%)																								
計	111人	111人	110人																								
<p>10 【日本文化学部】</p> <p>磨かれた言葉の論理と歴史認識を力として、世界的視野から地域貢献できる知的創造力を持った人材の育成を目標に、国語国文・歴史文化両学科にまたがる地域文化・日本文化を軸とした自文化理解・異文化理解の教育・研究体制を構築する。そのために、専門教育・教養教育領域へ副専攻制(所属学科以外の専門科目を履修できる制度)や地域学プログラム(仮称)の導入を前向きに検討し、第二期中期計画中の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「天の川プロジェクト」(※)の一環として、学部共通科目「日本文化学特別研究」において、スペイン・ポルトガルの大学等と連携し、日本人と留学生がともに学ぶ授業を実施する。</li> <li>・スペインの大学等との国際学術交流を推進する。</li> </ul> <p>(※) 天の川プロジェクト  「大学の世界展開力強化事業」(文科省)として、金沢大学と連携して実施する、日欧間の学生・教職員による国際学術交流プロジェクト</p>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部共通科目「日本文化学特別研究」を「天の川プロジェクト」[参考資料5]の基幹科目として位置づけ、サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学(スペイン)及びミーニョ大学(ポルトガル)からの交換留学生と日本人学生がともに学ぶ講義・フィールドワークを行うとともに、28年度に向けた授業改善の検討、次年度派遣する学生への事前指導等を行った。  [データ集11]</li> <li>・スペインのCEUサン・パブロ大学との学術交流事業を継続・発展させるため、同大学に学外研究滞在中の教員を中心に折衝するとともに、理事長が同大学を訪問し、学術講演の実施や約束文書を取り交わすなど、積極的な交流を行い、協定締結へと結びつけた。</li> <li>・自文化理解・異文化理解の教育・研究体制の充実に向け、「愛知人文社会ルネッサンス」と称した学部プロジェクトを立ち上げるとともに、3つのテーマを設定し、以下の取組を実施した。  「世界展開する海外日本研究者に学ぶ」…シカゴ大学名誉教授による講演会  「留学生的アイチガイドづくり」…留学生と日本人学生の協働によるフィールドワーク  「愛知県史展と愛知文化遺産の探究」…愛知県県史編さん室との共催による「愛知県史展」</li> </ul>																									

<p>11 〔教育福祉学部〕</p> <p>カリキュラムにおける教育発達学科及び社会福祉学科相互の乗り入れを増やすなど、教育と社会福祉の両分野の連携を強化するなかで、人間の生涯にわたる発達を支援し、誰もが尊厳ある生活を送ることができる社会の創造に貢献する専門職を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生懇談会を開催し、学生の意見も聴取しつつ新カリキュラム及び学部共通科目増設について点検・評価を行う。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生懇談会において学生の評価が高かったため、両学科共通の「教育福祉学基礎論」における TA をファシリテーターとしたグループ討論を継続して実施することとした。また、27 年度より新入生ガイダンスにおいて、学部共通科目の丁寧な趣旨説明を行うとともに、学生懇談会での学生の意見を踏まえ、28 年度の新入生ガイダンスにおいては履修モデルを活用して理解を促すなど履修指導方法等について更なる改善を図ることとした。</li> </ul>	
<p>12 〔看護学部〕</p> <p>「学生の看護実践能力を高めるために、臨床判断に基づく看護技術教育を強化する。」ことを目指し、保健師養成への選択制の導入をはじめとする、学生の希望に即した専門領域をより深く学べるカリキュラムを設定し、新設の導入教育や選択科目の教授内容の充実を図ることにより、他大学との個別化を実現させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 24 年度に導入した新カリキュラムに従って、「看護の統合と実践」関連科目（看護生活支援演習・看護学統合実習等）を開講する。</li> <li>・保健師選択制にかかる 4 年次科目（公衆衛生看護管理論・公衆衛生看護学実習等）を開講する。</li> <li>・保健師養成については、プロジェクトチームによるカリキュラム等の評価を実施し、その結果を踏まえ、平成 28 年度以降のあり方を継続して検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護の統合と実践」関連科目のうち、4 年次科目 7 科目を計画通り開講した。学部独自の授業アンケートにおいては、今年度新たに実施したシミュレーションを取り入れた演習（「看護学統合演習」（テーマ：多重課題※））に対する評価の平均がすべての項目で 4.3 以上（5 段階評価）となるなど、良好な評価結果であった。 （※複数の患者対応の中で、優先順位を考えて行動することができることを目的とした演習テーマ）</li> <li>・保健師選択制にかかる 4 年次科目 2 科目を計画通り開講した。</li> <li>・保健師養成の評価のため、プロジェクトチームによるカリキュラム等の評価を行った結果、保健師の養成コースの選択制には課題があることが判明したため、今後のあり方を 28 年度中に検討することとした。また、保健師養成の大学院への移行に関し、昨年度立ち上げたプロジェクトチームにおいて引き続き検討することとした。</li> </ul>	

<p>13 (指標) 看護師国家試験の合格率について、毎年度大学新卒者の全国水準を上回ることを目指す。</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護師国家試験合格率 27年度本学新卒者 97.8% (27年度全国大学新卒者 97.4%)</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1121 289 1935 474"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合格者数/卒業生数</td> <td>90/92名</td> <td>89/89名</td> <td>88/90名</td> </tr> <tr> <td>本学新卒者合格率</td> <td>97.8%</td> <td>100%</td> <td>97.8%</td> </tr> <tr> <td>全国大学新卒者合格率</td> <td>96.9%</td> <td>96.9%</td> <td>97.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>[データ集4]</p>		25年度	26年度	27年度	合格者数/卒業生数	90/92名	89/89名	88/90名	本学新卒者合格率	97.8%	100%	97.8%	全国大学新卒者合格率	96.9%	96.9%	97.4%	
	25年度	26年度	27年度																
合格者数/卒業生数	90/92名	89/89名	88/90名																
本学新卒者合格率	97.8%	100%	97.8%																
全国大学新卒者合格率	96.9%	96.9%	97.4%																
<p>14 【情報科学部】</p> <p>新たな情報の科学と技術に対応できる能力を有し、今後の情報化社会をリードできる情報技術者を養成するために、コンピュータ技術、メディア・制御技術、シミュレーション技術を主専攻とするコース分けと、コースごとのカリキュラムを検討する。また、高度なITSとロボティクス研究を融合した研究拠点の構築及び愛知県における企業のイノベーション(改革)に向けて産業界に貢献できる工学的人材養成について、前向きに検討し、第二期中期計画の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラムにおいて新たに開講した数学関連科目の学習効果を高めるための方策を検討し、実施する。</li> <li>モビリティ・ロボット研究所(仮称)開設に向けた準備を行う。</li> <li>工学的人材養成に向けたカリキュラムのあり方を検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラムにおいて新たに開講した「応用数学Ⅰ、Ⅱ」について、TA体制を整備するとともに、補習として正規科目とは別に「数学演習A、B」を開講し、学習効果の向上を図った。</li> <li>「情報技術で世界と戦える愛知」を創る拠点を目指し、研究所の設備等内容の充実に向け4年をかけて準備を進め、広面積かつ高天井の実証実験スペース、様々な光環境が再現可能な国内有数の照明設備、空間内の人やロボットを3次元的に計測可能なシステムなど、他には類を見ない、時代を先取りした新たな教育・研究施設として「次世代ロボット研究所」を建設し、28年度当初からの供用開始につなげた。</li> <li>研究所の設立により、これまで手狭な共用スペースで行っていた教育・研究を実践的に行うことが可能となった。また、実践的な共同研究に必要な研究所機能について企業ニーズを聞き取りながら整備し、施設を活用した企業等との共同研究に向けて27年度中に調整を行い、28年度開設当初からの共同研究につなげた。更に、学生と企業が直接ふれあう機会の創出、企業が求める人材の育成などにつなげることも可能となるよう工夫した。</li> <li>高校等学校関係者及び産業界との情報交換等を踏まえ、IoT、ロボットなどの技術革新を情報科学の面からリードできる人材養成のための新たなカリキュラムを引き続き検討することとした。</li> </ul>																	
<p>15 ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動(教員による授業内容・方法の改善・向上のための組織的な取り組み)は、全学単位では教育支援センター(教育の運営と調整)が、各学部については学部単位で、毎年実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学、学部のFD研修会、授業アンケート等に基づき、各教員が授業内容・方法の改善・向上の計画を立て、アンケート等を通してその効果を分析・評価する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学・各学部においてFD活動を実施した。各教員がFD研修会や授業アンケート結果を基に立てた、授業内容・方法に関する改善・向上計画の実施状況を把握するため、全専任教員を対象とした授業改善についてのアンケート(全10項目)を試行的に実施した。集計結果から、改善の必要があると回答した教員が積極的に改善を実施していることが判明した(87.8%)。</li> </ul>																	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のニーズ聞き取り調査について、学生・教職員の参加を促す企画・実施方法を検討した上で実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD委員会において学生のニーズ聞き取り調査の実施方法等を検討した結果、学生と共に考える機会として、シンポジウムの開催を決定し、障害者差別解消法の施行に向け、“多様性に配慮した学習環境・学習支援”をテーマとして実施した。(学生170名、教職員21名参加(H26:学生77名、教職員31名))</li> </ul>	
16 FD活動を有効なものにするために、自己点検・評価、学生評価、外部評価等のあり方に関する検証を踏まえて実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のリフレクションとの関連など、自己点検・評価の活かし方について評価委員会において検討する。</li> <li>・授業アンケートの対象科目の選定方法、アンケート項目の妥当性を検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・自己評価の内容を次年度の目標設定に繋げるため、報告書の「記入上の注意」や依頼メールの本文において、前年度の結果との関連性を考慮するよう意識喚起を促した。</li> <li>・対象科目の選定方法やアンケート項目について検討した結果、継続性を重視し、同様の内容で27年度授業アンケートを実施することとした。また、28年度に向け今年度初めて全専任教員を対象に試行した「授業改善についてのアンケート」において、「改善の必要がない」という回答が多数を占めた項目や、これまでの授業アンケートにおいて高い評価に偏っていた項目を抽出し、質問項目の妥当性や質問方法等について検討した。</li> </ul>	
17 予習・復習等の自主学習がより一層容易になる様にシラバスを工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間外の学習時間とシラバス記載内容の関係を分析・評価した上でシラバスを再検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバス記載内容の改善につなげるための新たな対策として「授業時間以外の学習(予習・復習)」の記載例を集め、教員に情報提供した。授業時間外の学習時間とシラバス記載内容の関係を分析するため、26年度に引き続き科目区分毎のデータの蓄積・分析を行った。</li> </ul>	
18 学生自主企画などを通じて学生に主体的・自主的な学習機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生自主企画研究について、募集にあたって十分な周知を図るとともに、研究成果の発信方法を検討する。</li> <li>・学生自主企画研究の採択方法、実施体制等について再検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集にあたり説明会(3回)や新入生へのチラシ配布等を行った結果、13件の応募があり、10件を採択し、1月に研究発表会を行った。また、研究成果の発信方法を検討し、28年度より企業・団体関係者に研究発表会への参加を呼びかけるとともに、連携した自治体等に報告書を送付することを決定した。</li> <li>・次年度から課題テーマ指定型として、新たに名古屋市(名古屋市交通局)と連携したテーマ「学生力を活かした市バス・地下鉄魅力創造プロジェクト」を募集することを決定した。</li> <li>・学生の主体的な学びを促すため、奨学制度「はばたけ 県大生」を新設し、募集手順を定めたくえ実施した。13名の受給者を選考し、1名につき25万円を給付した。</li> </ul>	

<p>19 学習時間の増加と学習の質の高度化を促す方策について検討し、それを実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習時間に関する基礎データの分析に基づき、学習時間の増加と学習の質向上について検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習時間に関する授業アンケート結果については、科目区分毎に分析を進めつつ、特に学習時間が長い語学科目や実験・演習科目などを抽出し、分析を行った。さらなる分析のため、担当教員への授業実施方法等の聞き取りなどを28年度に行うことを検討した。</li> </ul>	
<p>ウ 大学院教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各研究科の人材養成の方針とカリキュラム・ポリシーに沿って、カリキュラムを含む教育・指導体制を充実する。</li> </ul> <p>20 〔国際文化研究科〕</p> <p>国際文化専攻博士前期課程では、語学力の高度運用能力を通じて地域に貢献する高度専門職業人と、国際社会および地域社会にかかわる言語文化、社会文化の諸問題をグローバルな観点から考察する研究者、専門家を育成するための教育体制を整備する。</p> <p>日本文化専攻博士前期課程では、国際的視野に立って自文化を深く精緻に捉え、今日的な社会・文化の諸問題解決に貢献できる専門的人材を養成するための教育体制を整備する。</p> <p>博士後期課程においては、前期課程で培った精緻な専門的知識と問題解決能力を、より高次元で発揮できる専門的教育者・研究者、指導的組織者を養成するための教育体制を整備する。</p>	<p>〈国際文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博士前期課程において英語高度専門職業人コースを導入する。</li> </ul> <p>・博士前期課程、後期課程とも、研究指導において集团的指導体制を維持しつつ、その研究経過および研究結果の報告会を年1回開催する。</p> <p>〈日本文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化の発信と相互交流に向け、海外協定校等との学術交流を推進する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深い専門性と広い視野を育成するため、教員及び院生による研究会を開催する。</li> </ul>	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <p>〈国際文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語高度専門職業人コースを4月より導入するだけに留まらず、コースの教育体制の充実のため、第一線の通訳実務者（BBC ワールドで放送通訳に従事）を専任教員として採用するとともに、当初の予定にはなかった通訳翻訳研究所の設立を決定し、速やかに準備を進めることで、28年度当初からの運用開始を実現した。</li> <li>・対談収録等が可能なスタジオスペース、学内全施設に配信可能な同時通訳放送システムなど、大学としてはトップクラスの研究所設備を整備し、理論的研究のみならず、学部及び大学院の一貫した実践型教育を可能とすることにより、本格的な実習を通じた、質の高い通訳者・翻訳者養成に向けた教育体制を整えた。</li> </ul> <p>・論文指導における正副の集団指導体制を維持しつつ、10月に博士前期課程の中間研究報告会を開催した。また、「大学院教育と学部教育の連携」をテーマにFD研究会を開催し、取組の実践例を報告した。</p> <p>〈日本文化専攻〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン CEU サン・パブロ大学において、本学教員4名と博士後期課程修了生1名による研究発表や、理事長による講演を行うなど、緊密な学術交流の推進を図った。また、スペイン国際政治学研究所からの共同研究員の受け入れや、スペインの研究者2名による文字文化財研究所紀要への論文寄稿等、積極的な国際学術交流を図った。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院生研究会の役割を修士論文中間報告会に持たせ、27年度は2回実施することとし、教員・院生のみならず学部生にも広く参加を呼びかけた。</li> </ul>	

<p>21 〔人間発達学研究科〕</p> <p>博士前期課程では、人間の一生を通じての発達と尊厳ある生き方を地域社会において支えることのできる教育・保育と社会福祉に関わる高度専門職業人を育成するための教育体制を整備する。</p> <p>博士後期課程では、「人間の発達と尊厳」の問題を解明する人間発達学の創造と、発達保障の高度な専門家・研究者の育成をめざすための教育体制を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科における教育の理念と目的及びカリキュラムの構成を再検討する。</li> <li>・高度の研究力量形成のため、博士後期課程におけるコースワークの充実を検討する。</li> <li>・魅力ある大学院づくりに向け、全教員の協働体制を構築する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生便覧における教育の理念と目的に関する記載について再検討し、28年度から、より分かりやすく見やすい表現・構成に変更することを決定した。また、社会人学生の修学効果を高めるため、博士前期課程のカリキュラムを再編成し、28年度入学生から実施することを決定した。</li> <li>・博士後期課程において、コースワーク充実のため博士後期課程授業担当教員の資格審査を行い、新たに3名の担当教員を承認し、後期課程授業科目を充実させた。</li> <li>・生涯発達研究所における研究・事業、スクールソーシャルワーク教職員研修等における教育と福祉両分野の専任教員協働による取組の実施や、研究科の共同研究として、研究科長を研究代表者とする科研費B「教育と社会福祉の連携によるウェルビーイングの実現をめざす教育福祉の総合的研究」の申請を行うなど、分野を超えた教員の協働体制の構築を図った。</li> </ul>	
<p>22 〔看護学研究科〕</p> <p>博士前期課程では、看護学の専門的知識の探求および高度な実践力の学修により看護実践の質向上に寄与する人材を養成するため教育体制の充実を図る。</p> <p>博士後期課程では、看護学基礎研究・応用研究を自律的に遂行し研究成果をとおして広く社会に貢献できる人材を養成するための教育体制の充実を図る。</p> <p>また、専門看護師の実践力向上のため、実習教育スペースの拡充などを検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門看護師コースにおいては、平成26年度に導入した38単位カリキュラムを継続実施する。</li> <li>・博士前期課程、後期課程とも、研究計画発表会や研究計画審査、副指導教員制などの複数指導体制を継続する。</li> <li>・大学院用教室を計画的・効率的に使用する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・26年度に導入した専門看護師コースの38単位カリキュラムについて、新設した専門科目も含め、計画通り実施した。</li> <li>・博士課程担当教員による複数指導体制を継続するとともに、前期・後期課程とも研究計画審査会に全担当教員が参加し、多方面からの意見を示すことで教育の質向上に努めた。</li> <li>・いずれの教室も80%以上の使用状況であり、時間割以外でも空き教室をゼミ、グループワーク等で効率的に使用した。</li> </ul>	
<p>23 〔情報科学研究科〕</p> <p>博士前期課程では、情報科学に関する先端的な専門知識および技術を習得し、先端的な情報システムを構築できる高度情報システム技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部の新カリキュラムに合わせた博士前期課程カリキュラムの基本的構成を検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博士前期課程カリキュラムの基本的構成について検討し、現状では学部新カリキュラムに導入済のロボティクス教育に関する高度な専門教育を行う内容となっていないため、30年度に予定するカリキュラム改正に向け、ロボティクス教育を大学院でも行えるよう、学部の新カリキュラムを踏まえたものとする方針を確認した。</li> </ul>	

<p>者を養成するための教育体制を整備する。</p> <p>博士後期課程では、新たな情報技術の創造や実践的研究を行うことができる先端的高度情報システム技術者および研究者を養成するための教育体制を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な研究指導体制の強化・整備に向けて、博士前期課程の中間発表会、学会・研究会・各種イベント等の学外における発表実績を評価に取り入れて研究のインセンティブを高める方法を検討する。</li> <li>・組織的なグローバル教育指導体制の強化・整備に向けて、国際感覚・視野を広め、外国語能力を高める方法を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士前期課程の研究指導体制の強化として、中間発表会において従来のプレゼンテーションに加え、新たにペーパーセッション（※1）、レビュアーセッション（※2）を加えた3段階方式で実施した。また、学外での発表実績を評価の対象として認定する制度を新たに設けた。</li> <li>※1：中間発表報告書を作成し、提出すること。尚、年度内に学外発表をする学生は、学外発表原稿のコピーを中間発表報告書とすることができる。</li> <li>※2：中間発表報告書等を研究科教員間で閲覧し、コメント等の書き込みを行った上で、指導教員を通して当該学生へ返却すること。</li> <li>・外国語能力を高めるため、「情報科学特論C」で英語による授業を開講した。また、国際会議での発表を推奨し、国際会議において研究成果発表を行う学生の指導を行った。国際会議において優秀発表賞などを受賞した場合には、その成果をホームページで積極的に広報しアピールすることとした。</li> <li>・複数教員による多面的指導を継続した結果、本学の情報科学部、情報科学研究科博士前期課程を経て、博士課程を2年で早期修了した、女性初の内部進学による博士学位取得者が誕生した。</li> </ul>	
<p><b>エ 卒業・修了認定</b></p> <p>24 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）について、時代や社会の変化に対応するよう、適切に見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部・研究科が、ディプロマ・ポリシーを見直し、必要に応じて修正し、ホームページで広報する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部・研究科がディプロマ・ポリシーの見直しを行い、国際文化研究科において修正を行うとともに、ホームページで公開した。</li> </ul>	
<p><b>オ 学生への支援</b></p> <p>25 授業等に必要な教育機器等を更新・整備するなど、学生の学習環境の整備を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等で必要な機器を調査の上で更新し、学習環境を整えるとともに、学習環境の評価方法を検討する。</li> <li>・学生の主体的な学びにつなげるための学習支援の強化に向けた図書館の活用を検討する。</li> <li>・レファレンスの強化や、各種講座の開催等により、学生が利用し易い開かれた図書館作りを推進する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長久手キャンパスの講義室を利用する全教員を対象に「教室AV機器利用状況アンケート」を行い、その結果に基づき7教室に大型ディスプレイを導入するとともに、CALL教室（※）2室のAV機器更新を行うなど、学習環境の整備を行った。</li> <li>（※Computer Assisted Language Learning 教室：パソコンやネットワークを活用し、音声、映像、テキスト等による外国語学習を行う教室）</li> <li>・学生へのアンケート調査結果を踏まえ、図書館内にグループ学習コーナーを整備するとともに、閉架書庫に個人閲覧用座席を設置することにより多様な学習空間の提供を行った。</li> <li>・利用者の多様なニーズに応えるため図書館職員の研修参加を推進し、職員のレファレンス力向上に努めるとともに、講座やオリエンテーション等を以下のとおり実施することで、学生がより利用し易い図書館作りを推進した。</li> </ul>	

内容	25年度	26年度	27年度
図書館オリエンテーション	36回（長久手） 3回（守山）	40回（長久手） 3回（守山）	25回（長久手）※ 3回（守山）
情報探索講（初級・上級）	54回（長久手） 3回（守山）	46回（長久手） 2回（守山）	45回（長久手） 6回（守山）
各種館内展示	10回（長久手） 2回（守山）	9回（長久手） 3回（守山）	11回（長久手） 4回（守山）
「今月の五冊」 「図書館だより」発行	12回・1回	12回・2回	12回・0回
図書館来館者数 (学内関係者)	186,540名 (長久手) 32,642名 (守山)	184,426名 (長久手) 31,477名 (守山)	177,129名 (長久手) 32,204名 (守山)

※図書館オリエンテーション（長久手）の回数の減少は、システム入れ換え対応により、年度当初に開催不可能な期間があったため。

・学生生活アンケートを実施するとともに、結果に基づき学生支援の改善策を検討する。

・学生支援課の利便性に関するアンケート調査の結果を分析して、サービス向上を検証する。

・「国際交流に関わる学生支援」をテーマとしたアンケートの結果を踏まえ、外国語学部を含めた全学向けの広範な学内周知を図るため、案内方法・ポスター等の掲示場所の見直しや国際交流に関わる説明会等の開催場所の再検討、学内における国際交流の機会の創出などに努めることとした。また、学務課において窓口対応改善に関するワーキンググループを立ち上げ、アンケート結果をもとに、窓口対応に関する課題・対策について検討した。（アンケート回収率：81%）

・本アンケート調査及び学生生活アンケートの結果、26年度から新たな体制でスタートした学生支援課の利便性の向上が確認できたものの、対応職員が少ないなどの意見も見受けられたため、職員による窓口対応の質向上に向け新たに窓口対応マニュアルを作成し、担当外の業務についてもスムーズに対応できる体制を整えた。

26 学生自主企画やボランティア活動の支援を通じて、学生の地域貢献活動を支援する。

・学生自主企画研究を通じた学生の地域貢献活動を支援する。

・自治体との連携を図った学生自主企画研究課題の募集・採択方法を検討した上で、地域貢献活動を支援する。

「年度計画を十分に実施している」

・学生自主企画研究において、ゲームアプリを活用して常滑市の活性化を図る企画や長久手市との連携による「児童登下校の見守り運動」など、地域と連携した活動をテーマとした研究を採択・支援した。

・新たに名古屋市（名古屋市交通局）の「学生力を活かした市バス・地下鉄魅力創造プロジェクト」と学生自主企画研究の連携を検討し、28年度より実施することとした。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の地域貢献活動を促進するために、ボランティアステーションなどを通じて学生ボランティア活動を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種団体・法人等からのボランティア要請について地域連携センター長が内容を精査し、ボランティアステーションなどを通じて87件のボランティア情報を提供した。</li> </ul>	
<p>27 グローバル人材育成推進事業を通じて、学術交流協定に基づいた留学生の派遣・受け入れを促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流推進に関する方針に基づく取組を実施する。</li> </ul> <p>(参考)</p> <p>*27年度方針*</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>海外協定大学との連携強化及び英語圏大学との新規学術交流の拡大</li> <li>留学支援の強化</li> <li>国際交流を通じた愛知県との連携</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、英語圏（北米・オーストラリア）の大学に重点を置き、協定締結・交流強化を目指す。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「天の川プロジェクト」[参考資料5]において、国内外の大学と共同で学生交流プログラム（ジョイントプログラム）を実施し、学生10名が参加した。（派遣学生4名、受入学生6名）また、スペイン・ポルトガルの大学から教職員6名を受入れ、本学において講演会を開催した。</li> <li>国際交流室とキャリア支援室との共同による「留学×キャリア」支援を企画・実施し、留学予定者を対象とした「キャリアから見る留学」セミナーを開催するなど、留学生に対するキャリア支援を推進した。</li> <li>愛知県が実施する受入留学生を対象としたインターンシップ事業に関する学内説明会を開催し、受入留学生2名がインターンシップに参加した。</li> <li>オーストラリアビクトリア州と愛知県の友好35周年記念式典への参加やビクトリア州総督の本学訪問・特別講演会の実施、インドネシアガジャマダ大学への知事訪問・講演事業支援等、国際交流を通じた愛知県との連携を図った。</li> <li>NAFSA・SAF・APAIEなどの国際教育に関する非営利機関が実施する国際教育交流会議や研修等に参加することで協定大学との情報交換・交流強化を図るとともに、新規協定を目指した話し合いを行うなど、積極的な調査・交渉の結果、新たに米国の非営利教育機関SAFを含む3つの大学・機関と協定を締結した。</li> </ul> <p>[参考資料6][データ集10・11]</p>	
<p>28 社会や学生（留学生を含む）のニーズに応じた講座を開講するなど、キャリア形成支援体制を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア支援室による就職ガイダンス及びサテライトキャンパスにおけるキャリア形成支援について、就職・採用活動開始時期の変更に伴う必要な見直しを行ったうえ、実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>比較的早期に志望決定が望める公務員系ガイダンスと民間企業志望者向けガイダンスの開催時期を入れ替えて実施するとともに、採用スケジュール変更の周知等を目的としたガイダンスを新たに実施するなど、就職活動時期の変更に対応した。また、サテライトキャンパスにおいては、OB・OGによる業界研究会を開催するとともに、就職相談カウンセラーが長久手キャンパスとローテーションで勤務し、面談を行った。</li> <li>学生への面談件数や就職ガイダンス・セミナー参加者数が増加するとともに、合同企業説明会の規模を拡大するなど（H26:2日間→H27:3日間、参加企業数H26:95社→H27:122社）、キャリア支援を強化し、就職内定率（学部）は98.9%に到達した。（H26:97.6%）</li> </ul>	

	25年度	26年度	27年度
キャリア支援室面談件数	2,182件	1,866件	2,014件
うちサテライトキャンパス	817件	635件	845件
公務員相談コーナー面談件数	—	56件	86件
就職ガイダンス・セミナー実施件数 (*)	32回	48回	40回
参加人数	3,097名	3,301名	3,520名
合同企業説明会参加企業数	97社	95社	122社
参加人数	537名	676名	921名
インターンシップガイダンス	4回	3回	3回
参加人数	377名	595名	491名
学部就職内定率 (内定者数/就職希望者数) (全国平均(文科省・厚労省共同調査))	96.6% (94.4%)	97.6% (96.7%)	98.9% (97.3%)

(\*)「OB・OGによる業界研究会」を含む。(合計9回223名)

・インターンシップの機会の拡充を継続する。また、教育効果の高いインターンシッププログラムを企画し、企業等に提案する。

・グローバル人材育成推進室などと協働し、グローバル人材育成に向けたキャリア支援を実施する。

・高等学校教員志望者に対するキャリア支援を強化する。

・就職・採用活動期間の短期化など、採用環境の変化を受けて、学生の就職活動に資するべく、学校推薦の求人を増やすことに注力した。この結果、昨年度4件だった学校推薦を地元優良企業を中心に12件に増やすことができた。

・中部経済連合会のイベントに参加し、参加企業へインターンシップの学生受入れについて依頼するとともに、企業訪問を行いインターンシップに関する情報収集を行うなど、インターンシップの機会拡充に努めた。また、海外インターン生の研修報告書提出を企業に提案し、参加学生に企業指導担当者からのコメント付きの研修報告書を毎月提出してもらうことで教育効果の高いインターンシッププログラムとした。

・国際交流室とキャリア支援室が共同で「留学×キャリア」支援を企画し、留学説明会における留学後就職活動を終えた先輩のプレゼンテーションの実施や、愛知県が実施する受入留学生を対象としたインターンシップ事業への参加促進、派遣留学予定学生を対象とした「キャリアから見る留学」セミナーの実施など、留学生へのキャリア支援を行った。

・4月より高等学校教職第一志望者(38名)を対象として教員採用試験に向けた面接対策講座、筆記試験対策講座を実施するとともに、教職キャリア理解を目的としたスクールインターンシップを8月下旬から9月にかけて行い、1~4年生計17名が参加した。

[データ集3]

<p>29 学生の健康管理として、定期健康診断や学生相談員等による各種相談を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期健康診断、学生相談の各種相談を実施する。</li> <li>長久手キャンパスにおける学生相談体制を強化する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期健康診断を実施（受診率：85.5%）するとともに、校医によるメンタルヘルス相談、ハラスメント相談等のほか、以下のとおり学生相談を実施した。</li> </ul> <p>(長久手キャンパス)</p> <table border="1" data-bbox="1074 422 1982 835"> <thead> <tr> <th colspan="2">学生相談等内容</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生相談員による学生相談</td> <td>随時</td> <td>163回</td> <td>142回</td> <td>122回</td> </tr> <tr> <td>保健師による学生相談</td> <td>随時</td> <td>595回</td> <td>621回</td> <td>550回</td> </tr> <tr> <td>メンタルヘルス相談</td> <td>年6回 (H26:5回)</td> <td>4名</td> <td>2名</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>臨床心理士によるカウンセリング</td> <td>火水木金 各4時間</td> <td>40名 216回</td> <td>58名 306回</td> <td>55名 352回</td> </tr> </tbody> </table> <p>(守山キャンパス)</p> <table border="1" data-bbox="1074 940 1982 1224"> <thead> <tr> <th colspan="2">学生相談等内容</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生相談員による学生相談</td> <td>随時</td> <td>29回</td> <td>39回</td> <td>53回</td> </tr> <tr> <td>臨床心理士によるカウンセリング</td> <td>毎週火曜日 4時間</td> <td>15名 52回</td> <td>11名 52回</td> <td>10名 75回</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>後期から常勤カウンセラー1名及び非常勤カウンセラー2名体制とすることで、週4日の相談体制を実施し、相談可能時間を拡大した。</li> <li>障害者差別解消法に基づく合理的配慮を行う体制構築について、ワーキンググループを立ち上げ検討を進めた。</li> </ul>	学生相談等内容		25年度	26年度	27年度	学生相談員による学生相談	随時	163回	142回	122回	保健師による学生相談	随時	595回	621回	550回	メンタルヘルス相談	年6回 (H26:5回)	4名	2名	11名	臨床心理士によるカウンセリング	火水木金 各4時間	40名 216回	58名 306回	55名 352回	学生相談等内容		25年度	26年度	27年度	学生相談員による学生相談	随時	29回	39回	53回	臨床心理士によるカウンセリング	毎週火曜日 4時間	15名 52回	11名 52回	10名 75回	
学生相談等内容		25年度	26年度	27年度																																							
学生相談員による学生相談	随時	163回	142回	122回																																							
保健師による学生相談	随時	595回	621回	550回																																							
メンタルヘルス相談	年6回 (H26:5回)	4名	2名	11名																																							
臨床心理士によるカウンセリング	火水木金 各4時間	40名 216回	58名 306回	55名 352回																																							
学生相談等内容		25年度	26年度	27年度																																							
学生相談員による学生相談	随時	29回	39回	53回																																							
臨床心理士によるカウンセリング	毎週火曜日 4時間	15名 52回	11名 52回	10名 75回																																							
<p>30 成績優秀者奨学制度に基づく経済的支援を継続的に実施し、就学のための経済的支援として、各種奨学金の情報提供を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績優秀者奨学制度を廃止し、これに代わる新しい制度を検討する。</li> <li>各種奨学金等について、情報提供の改善を図る。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生の主体的な学びを促すため、奨学制度「はばたけ 県大生」を新設し、募集手順を定めたくえ実施した。13名の受給者を選考し、1名につき25万円を給付した。</li> <li>地方公共団体や民間財団等の奨学金の募集内容をわかりやすくまとめるための掲示用共通フォーマットを作成し、掲示を行うことで奨学金情報の周知を図った。</li> </ul>																																									

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 愛知県立大学

(2) 研究に関する目標

中期目標	優れた研究者・教員を確保するとともに、若手研究者等によるオリジナリティのある研究や、地域の発展に貢献する研究、学部・学科・大学の枠を超えた共同研究の推進などに努めることにより、各教員や大学全体の研究力を高め、その成果をもって地域社会や国際社会に貢献する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に対するコメントなど
31 公募によって優れた研究者・教員を確保する。	・教員を公募によって採用することを原則とする。	「年度計画を十分に実施している」 ・各学部合計 18 名の教員すべてについて、公募により採用を決定した。(外国語学部 7 名、日本文化学部 1 名、教育福祉学部 1 名、看護学部 7 名、情報科学部 1 名、教養教育センター1 名)	
32 学長特別研究費において、若手研究者によるオリジナリティのある研究を支援する。	・若手研究者のオリジナリティのある研究を支援する。	「年度計画を十分に実施している」 ・学長特別研究費における若手研究者への研究助成について公募を行い、26 年度からの継続分として 3 件・2,040 千円、27 年度新規分として 5 件・3,162 千円の研究を支援した。(学長特別研究費全体に占める割合：全 19 件中 8 件 (42.1%)、総額 21,666 千円中 5,202 千円 (24.0%)) [データ集 1 2]	
33 学長特別研究費において、地域の発展に貢献する研究を支援する。	・学長特別教員研究費交付規程に基づき、地域の発展に貢献する研究を支援する。	「年度計画を十分に実施している」 ・学長特別教員研究費における地域の発展に貢献する研究として、「発達障がい支援スクールボランティア研修に関する研究—『スクールボランティアのてびき』の発行—」等について支援するとともに 28 年度交付分として、あいちロボット産業クラスター推進協議会等との連携を視野に入れた「日常を豊かにするための家族向け生活支援ロボットに関する研究」等の採択を決定した。 [データ集 1 2]	
34 学術研究情報センター(図書館として学術情報を発信するとともに教員の研究支援を担う)が、学部・学科の枠を越えた共同研究及び外部との共同研究を支援する	・学部学科の枠を超えた共同研究や外部との共同研究へとつなげるために、研究者データベースを開設するとともに、教員間の研究交流を図る。	「年度計画を十分に実施している」 ・学内外における共同研究を促進するため、3 月より研究者データベースの運用を開始するとともに、県立 2 大学教員研究交流会において、従来の研究発表に加え、ポスター交流・ランチョンセミナーを企画するなど、教員間の交流を促した。(発表者 26 名(口頭 13 名、ポスター13 名)、参加者 71 名)	
35 (指標) 科学研究費補助金の申請率が毎年度 80% (研究分担者を含む) に到達することを旨とする。		「年度計画を十分に実施している」 ・外部コンサルタントによる支援を行うなど、教員に対して科研費申請を促した結果、27 年度科研費申請率は 89.3% (研究分担者を含む) となり、目標の 80% を上回った。(H26:88.8%)	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競争的資金に関する申請サポート体制を充実させる。</li> <li>・外部資金獲得のために必要な情報を収集し、学内に広く公表する。</li> <li>・外部資金獲得に役立つ講演会や研究会を企画、実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費の申請書について、外部コンサルタントによるチェック・助言を行うとともに、時給職員を雇用することで業務の迅速化・精緻化を図った。</li> <li>・学術研究情報センターホームページ上の「研究支援情報」サイトの更新やメールを通じた外部資金情報の発信を定期的に行い、教員が常に最新の情報を得られるよう対応した。</li> <li>・外部コンサルタント会社より講師を招き、科学研究費助成事業講習会・説明会を開催した。(参加者数：教職員 120 名)</li> </ul> <p style="text-align: right;">[データ集 5・6]</p>	
--	---	--	--

**第 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標**  
 1 愛知県立大学  
 (3) 地域連携・貢献に関する目標

中期目標	愛知県や他の自治体、産業界、名古屋市立大学などの他大学、地域社会等との多様な連携を充実させ、県民の生活と文化の向上、地域の課題解決や活力創出に貢献する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に対するコメントなど
36 地域連携センターが、学外ニーズと学内シーズのマッチングを促進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学 COC プラス 事業への申請検討を通じて、地方自治体との地域連携事業の見直しを図る。</li> <li>・地域連携センターが、学外ニーズと学内シーズのマッチングを行う。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学 COC プラス事業への申請を検討した結果、同事業の趣旨が実質的に人口流出県を対象としており、人口流入県である愛知県には適さない事業であることから申請しないことを決定した。</li> <li>・刈谷市生涯学習課や日進市西小学校からの講師派遣依頼等に対応するなど、地方自治体などからの計 8 件の要請に対し、それぞれのニーズに対するマッチングを行った。</li> </ul>	
37 愛知県の審議会等への参画を通じて、愛知県の政策・施策の推進を積極的に支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県の審議会等委員に参画する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県の生涯学習講座講師登録者名簿に登録することにより、審議会委員の任命や講師依頼の促進を図るとともに、県の依頼に応じ、私立学校審議会委員及び学校法人等助成審議会委員へ本学教員を推薦するなど、委員への参画を推進した。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知万博 10 周年を記念して行われる第 32 回全国都市緑化あいちフェア「花と緑の夢あいち」に協力する。</li> <li>・愛知県が推進する知の拠点重点研究プロジェクト事業の超早期診断技術開発プロジェクトに参画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国都市緑化あいちフェアを開催するにあたり、ボランティア・出展企画の募集を行うなど運営に協力するとともに、全国都市緑化祭の会場提供を行った。また、全国都市緑化あいちフェアの応援事業として秋の学術講演会・公開講座を開催し、広報用チラシ、ポスター等にロゴマークを掲載することで、全国都市緑化あいちフェアの PR を行った。</li> <li>・超早期診断技術開発プロジェクトに情報科学部 2 名、看護学部 1 名が参画し、ガスセンシング機器開発など 3 件の研究を行い、豊橋市・名古屋工業大学で開催されたプロジェクト成果報告会において発表を行った。また、プロジェクトの成果の一つである「血管内皮細胞のずり応力に対する NO 生産モデル」の電気学会論文誌への採録が決定した。</li> </ul>	
<p>38 愛知県教育委員会と高大連携事業を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県教育委員会と「知の探究講座」を継続する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県教育委員会との高大連携事業である「知の探究講座」として、教育福祉学部の教員による講座「人の心を知る」（全 8 回）を実施し、県内高校生 31 名が参加した。また、1 月に名古屋大学にて開催された全体発表会に出席し、6 大学の講座を受講した各グループによる成果発表と 6 大学の教員による講評を行った。</li> </ul>	
<p>39 長久手市、その他の自治体、産業界、名古屋市立大学などの他大学との連携を拡充する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長久手市大学連携推進協議会を核に連携事業を推進する。</li> <li>・地域課題解決のため他団体との連携について検討する。</li> <li>・名古屋市立大学との連携事業を企画・実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長久手市内 4 大学（県大、芸大、愛知医科大学、愛知淑徳大学）と長久手市で構成する長久手市大学連携推進協議会にて企画・実施した大学連携提案助成金事業のうち、長久手市長寿課及び保健医療課から提示された高齢世帯増加に伴う課題に対し 2 件応募し、いずれも採用された。また、長久手市長秘書インターンシップの企画立案を行い、市長に帯同し、来客対応や広聴関係の業務等を行うインターンシップに本学学生 1 名が参加した。長久手市大学連携推進協議会会長には、本学の地域連携センター長が就任した。</li> <li>・情報科学部の専門科目「メディアプレゼンテーション論」において、学生による「愛・地球博記念公園ならびにリニモ魅力化計画」に関するプレゼンテーション発表会を愛・地球博記念公園にて実施し、愛知県建設部公園緑地課、愛知高速交通株式会社等に審査を依頼した。発表を行ったもののうち、愛・地球博記念公園に関する動画が評価され、園内での活用が検討された。また、長久手市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議に本学地域連携センター長が出席し、総合戦略策定に参画した。</li> <li>・名古屋市立大学との連携事業として、外国語学部公開授業「イギリスの歴史」（参加者：87 名）、世界史セミナー「18 世紀フランス『百科全書』研究の現状と課題」（参加者：53 名）を開催した。また、愛知県振興部と「あいち地域づくり連携大学」を企画、実施し、市町村職員と名古屋市立大学、本学の学生が共同で地域課題解決に向けた施策提案を行った。</li> </ul>	<p>[データ集 7]</p>

<p>40 一般向け学術講演会及び生涯学習支援をはじめとする公開講座を開催し、研究成果を地域の発展に繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学術講演会及び公開講座を継続的に実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学術講演会「アフリカでのコップ一杯の水の価値発見から琵琶湖保全へ～学者40年・滋賀県知事8年の経験から伝えたいこと～」や公開講座「環境と資源から見る国際社会 21世紀の世界と日本」など18企画（参加者計3,198名）を実施した。 [データ集7]</li> </ul>																	
<p>41 (指標) 一般向け学術講演会及び公開講座を毎年度10企画開催する。</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <table border="1" data-bbox="1086 457 1961 600"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画・回</td> <td>13企画61回</td> <td>16企画59回</td> <td>18企画59回</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>3,368名</td> <td>5,418名</td> <td>3,198名</td> </tr> </tbody> </table> <p>[データ集7]</p>	区分	25年度	26年度	27年度	企画・回	13企画61回	16企画59回	18企画59回	参加者	3,368名	5,418名	3,198名					
区分	25年度	26年度	27年度																
企画・回	13企画61回	16企画59回	18企画59回																
参加者	3,368名	5,418名	3,198名																
<p>42 小・中・高等学校の現職教員や看護師等に対する研修等を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定看護師教育課程を運営し、がん化学療法看護認定看護師及びがん性疼痛看護認定看護師を育成する。</li> <li>看護職を対象とした研修会を企画し開催する。</li> <li>現職看護師を対象とした個別研究指導を実施する。</li> <li>現職教員の資質向上を図るため、教員免許状更新講習を開講するとともに、教育委員会等と連携した取組を実施する。</li> <li>卒業生教員等と連携し、現職教員及び本学教職課程履修者を対象とした研修を実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認定看護師教育課程[参考資料7]を引き続き運営し、がん化学療法看護認定看護師については14名、がん性疼痛看護認定看護師については15名が、それぞれ課程を修了した。</li> <li>看護職を対象とした研修会及び現職看護師を対象とした個別指導を以下のとおり実施した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1056 1052 2006 1234"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護職者一般対象の研修会</td> <td>6件 453名</td> <td>7件 646名</td> <td>8件 640名</td> </tr> <tr> <td>認定・専門看護師対象研修会</td> <td>6件 447名</td> <td>6件 461名</td> <td>6件 381名</td> </tr> <tr> <td>個別指導</td> <td>9件</td> <td>10件</td> <td>9件</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員免許状更新講習を実施し、必修科目1講座、選択科目4講座を開講した。また、愛知教育大学を代表校とする「大学間連携共同教育推進事業」の連携校として、eラーニングによる「学校図書館司書教諭」など各種資格プログラムや、英語教育分野における共同教育プログラムを実施するとともに、教育委員会等と連携した外国籍児童生徒支援に関する具体的方策の提言を行った。</li> <li>本学卒業生の愛知県高校国語科・英語科教員による同窓会組織「あゆち会」と連携した、現職教員・本学教職課程履修者対象の研修会を実施した。また、小学校英語教育に関する研究会を卒業生と学会の連携で企画し、卒業生教員、愛知県内小学校教員、本学教職課程履修者が参加した。</li> </ul>	区分	25年度	26年度	27年度	看護職者一般対象の研修会	6件 453名	7件 646名	8件 640名	認定・専門看護師対象研修会	6件 447名	6件 461名	6件 381名	個別指導	9件	10件	9件	
区分	25年度	26年度	27年度																
看護職者一般対象の研修会	6件 453名	7件 646名	8件 640名																
認定・専門看護師対象研修会	6件 447名	6件 461名	6件 381名																
個別指導	9件	10件	9件																

43 地域住民のニーズに応じた事業を実施する。

・医療分野ポルトガル語・スペイン語講座（サテライトキャンパス）について、本講座の課題と「あいち医療通訳システム」の現状、ニーズ等を勘案し、新たに発展レベルの講座を開設する。

・子育て支援もりっこやまっこ事業を継続的に実施する。

「年度計画を十分に実施している」

・「あいち医療通訳システム」の現状や受講生のニーズに対応するため「中級（発展）」クラスを開講した結果、領事館現役勤務者やあいち医療通訳システム登録者など高いレベルの受講生の参加があり、レベル向上に繋がった。また、本講座は、文部科学省「平成 28 年度職業実践力育成プログラム」に認定された。

[参考資料 8・9]

【受講者数】（（ ）内はサテライトキャンパス受講者数）

言語	レベル	25 年度	26 年度	27 年度
ポルトガル語	入門	1 名	0 名	0 名
	初級	15(12)名		
	中級	2 名	8(8)名	
	中級（発展）			11(11)名
スペイン語	入門	1 名	2 名	2 名
	初級	18(17)名		
	中級	3 名	17(17)名	
	中級（発展）			15(15)名
計		40(29) 名	27(25) 名	28(26)名

・守山キャンパス体育館を利用し、看護実践センター地域支援委員会主体の子育て支援「もりっこやまっこ」事業を以下のとおり開催した。

	25 年度	26 年度	27 年度
「もりっこやまっこ」開催回数	14 回	13 回	15 回
「自由ひろば」	14 回	13 回	15 回
「もりっこやまっこサロン」	6 回	7 回	5 回
延べ参加組数	965 組	1,125 組	1,165 組
新規登録組数	219 組	242 組	206 組

項目別の状況

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 2 愛知県立芸術大学  
 (1) 教育に関する目標

中期目標	<p>ア 入学者選抜                  アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づき、芸術活動への意欲が高く、実技の基礎能力を備えた、芸術を通して人に感動を与えられる資質を持つ学生を確保する。</p> <p>イ 学部教育及び大学院教育                  学生一人ひとりへのきめ細やかな指導に基づく世界レベルの専門・実技教育を促進し、芸術文化を担い、かつ創造する芸術家、研究者、教育者等、芸術文化に携わる優れた人材を育成する。                  特に大学院教育においては、学部教育を基礎とした専門教育の充実を図りながら、様々な芸術表現に対応できる高度な専門能力を有する人材や自立して活動し得る芸術家・研究者、芸術文化の分野において中核的・指導的役割を担うことができる人材を養成する。</p> <p>ウ 卒業認定                  卒業生と修了生の質を保証するため、成績評価基準を常に検証し必要に応じて改善するとともに、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）に基づき適正に卒業認定を行う。</p> <p>エ 学生への支援                  学生の学習環境の整備や、国際的な芸術教育・活動、進路支援、健康管理、経済的な支援などを通じて、学生の学ぶ意欲を高めるとともに、安心して修学を継続できるようにする。</p>
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
<p>ア 入学者選抜                      44 アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づき、芸術活動の意欲が高く、実技の基礎能力があり、人を感動させられる学生を獲得するため、学部及び博士前期課程の入学定員や社会人、外国人等の入試制度を見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀な学生確保に向け、大学及び専攻ごとに入学者選抜の課題・対策を検討するとともに、新大学入学者選抜制度の動向を調査・フォローする。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各専攻・コースごとの入学者選抜に関する課題を洗い出し、音楽学部の実技試験では、志願者の学習進度・演奏経験などが生かされ、「受験」のための勉強が入学後の学修の基礎にもなり得るような課題曲の設定に意を払った。また、優秀な学生確保に向け、オープンキャンパスに合わせてセミナーや体験実習等を実施した。新大学入学者選抜制度については、芸術系大学学長会議において他大学の動向を確認するなど、調査・フォローを行った。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[データ集1・2]</p>	
<p>45 様々な媒体により本学の魅力を発信して入試広報活動を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術系高校・予備校等のヒアリングや入試状況の分析をもとに、入試広報の課題・対策を検討・策定する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術系高校・予備校等のヒアリングにおいて要望が強かった就職情報や入試合格作品をホームページへ掲載した。また、県外における大学説明会や予備校・高校訪問等を引き続き積極的に実施するとともに、各地の進学ガイダンスの傾向等を踏まえて参加の妥当性等を検討し、次年度の実施計画を策定した。（県外における大学説明会及び予備校・高校訪問件数 H26:8件→H27:11件）</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より効果的な広報のあり方を検討し、様々な媒体による本学の魅力発信を積極的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報の推進体制について検討した結果、28年度より新たに総括係を設け、入試広報と展覧会・演奏会等の事業広報の連携を図るとともに、全学広報を担うよう体制強化を決定した。また、広報委員会等にて大学広報の課題や魅力発信方策などについて議論・検討を行い、大学ホームページのリニューアル、記者発表の積極的活用、折込チラシの効率的な配布などを積極的に実施するとともに、SNSの活用に向け、学内の運用ルールや発信内容等について検討を行った。(主要日刊紙への記事掲載139件(H26:63件))</li> </ul>	
<p>イ 学部教育及び大学院教育</p> <p>46 専門分野の基礎教育や語学教育の充実を図り、カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成方針)に基づき、学生一人ひとりへのきめ細やかな指導を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の多様な関心を喚起するため、実技系のより実践的な特別講座や創作系の集中講義・講座などの拡充を検討する。</li> <li>・ソルフェージュなど音楽基礎教育のあり方について、引き続き検討する。</li> <li>・留学を目指す学生に国際交流室が語学を含めた総合サポートを実施するなど、学生向けの語学学習支援の充実を図る。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・著名なアーティストによる実演・公開レッスン等を行う「特別講座」・「公開授業」、授業の最終回に発表会として行う「試演会」など、音楽学部棟の室内楽ホール等新環境を活かした実践的な講座や創作系の講座を拡充した。(特別講座・公開授業 H26:9回→H27:14回、試演会(室内楽ホール)H26:57回→H27:83回)</li> <li>・「ソルフェージュ」の応用グレードにおいて、専門分野に応じて用意した様々な教育内容の中から学生が選択できるよう見直したり、「和声」のクラス分けを専攻・コースに捉われず学修進度に応じてよりフレキシブルに行うこととするなど、学部の基礎教育の授業における学生の選択肢を広げ、よりフレキシブルな学修形態を実現した。</li> <li>・留学を目指す学生に対して国際交流室専任職員が語学学習相談・英語文書作成補助などのサポートを総合的に実施した。また、昨年度に引き続き、サレルノ大学(協定校)におけるイタリア語/文化短期研修に4名の学生を派遣した。 [データ集10]</li> </ul>	
<p>47 学生の国際交流事業の充実や著名なアーティスト・研究者の招聘により、国内に留まらず世界に通用する芸術家を育成する専門・実技教育を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協定校教員の招聘など、協定校との関係をさらに深めるためのプログラムを実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラパコーン大学(タイ)の教員・学生との共同展「キュービックミュージアム in 愛知」、カリフォルニア大学サンディエゴ校の教員による公開レクチャー・ミニコンサート等、協定校との積極的な交流を実施した。 [データ集10]</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティスト・イン・レジデンス事業において著名なアーティスト・研究者を招聘し、専門・実技教育を実施する。</li> <li>・招聘教員などの増加に伴い、研究室や宿舍等の受入対応を引き続き検討する。</li> <li>・ソルボンヌ大学との博士論文共同指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティスト・イン・レジデンス事業[参考資料10]において、協定校等から7名のアーティストを招聘し、学生への専門・実技教育や公開レッスン、教員同士の交流を実施した。</li> <li>・招聘教員等の宿舍として県立大学の学長公舎、学内の教員住宅空き室等を利用するなど、施設の有効活用を図った。</li> <li>・ソルボンヌ大学在籍中の本学学生に対し、両大学教員による博士論文共同指導を実施するとともに、28年度実施予定の学位審査に向けた協議を行った。</li> </ul>	
<p>48 様々な芸術表現に対応できる高度な専門能力を有する人材や自立して活動し得る芸術家・研究者、芸術文化の分野において中核的・指導的役割を担うことができる人材を養成するため、学部と大学院の連携により専攻・コース・領域の枠にとらわれることなく学修できる体制を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部と大学院の連携により、複合芸術分野のオペラや、専攻・コース/領域ごとの演奏会共演・アンサンブルなどを実施する。</li> <li>・古典絵画の保存・修復の教育を推進する。</li> <li>・名古屋大学、名古屋学芸大学などの外部研究機関との授業連携を継続する。</li> <li>・あいちトリエンナーレ 2016 に向けた新たな大学連携事業など、国内外のイベント・芸術文化活動等を積極的に実施する。</li> </ul>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き音楽・美術の複合芸術であるオペラ教育を実施するとともに、「室内楽演奏会」等における学部生・院生の混成による演奏会など学部と大学院が連携した教育を推進した。また、50周年記念事業[参考資料11]として、卒業生・教員・元教員が集結する一夜限りのドリームオーケストラ「創立50周年記念式典・祝祭管弦楽団公演」や美術・音楽の教員・修了生・在学生の協働による「オペラ公演」など、学部・専攻等の枠を越えた様々な企画を立案した。</li> <li>・26年度に拡充した模写・保存修復関連授業について、実習の位置付けを明確にするために授業計画等の整理を行った。また、教育の一環として実際に依頼された物件を修復し、研究成果の報告会を行うなど、保存・修復の教育を推進した。</li> <li>・名古屋大学との連携による両大学学生及び一般向けの「キャンパス・コンサート」、名古屋学芸大学との連携による学部授業「オペラ研究」の舞台衣装制作及び大学オペラ公演の記録映像制作を継続実施した。</li> <li>・あいちトリエンナーレ 2016 芸術大学連携プロジェクト[参考資料12]として、名古屋芸術大学、名古屋造形大学との三大学合同展覧会「Sky Over I・II」及び本学主催の展覧会「-MULTI LAYER-」を開催した。また、瀬戸内国際芸術祭の中間年企画「ART SETOUCHI」において、演奏会等6件の企画を実施した。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[データ集9]</p>	

<p>49 博士課程においては、教務に関する運営の見直しなど前期・後期課程の連携を促進し、副指導教員を配置するなど研究・指導体制の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務に関する運営の見直しなど博士前期及び後期課程の連携について、各研究科会議で検討する。</li> <li>・美術研究科博士後期課程において、より専門性を重視した審査を行うため、外部審査委員を配置する体制を検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術研究科では、副指導教員の配置を決定し、28年度からの実施に向け必要な規程等の改正を行った。音楽研究科では、教育効果を高めるため、博士後期課程学生による前期課程授業補助や前期課程学生の後期課程授業への参加など、両課程が連携した教育を推進した。</li> <li>・美術研究科博士後期課程において、より専門性・客観性を確保するため、27年度より博士論文審査への外部審査員導入を試行し、28年度からの本格導入に向け、必要な規程の改正を行った。</li> </ul>	
<p>50 FD 活動については、国公立五芸大との間で情報交換を行うとともに、授業アンケートの結果等を活用して教育内容・方法の改善を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立五芸大FD意見交換会にてFD活動について意見交換し、効果的な取組の本学への反映を検討する。</li> <li>・授業アンケート結果を活用し、各専攻・コースの実情に合わせた改善を検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立五芸大FD意見交換会(テーマ:「社会連携型芸術教育」)に参加し、他大学の事例発表を受け、芸術大学におけるFD活動のあり方について検討することとした。</li> <li>・授業アンケート結果等をもとに、各専攻・コースにおいて、より教育効果の高い音響環境の中で授業を行うための教室変更を行ったほか、授業時間帯の変更、専門科目の授業内での初年次教育の実施など、教育内容・方法の改善を図った。また、28年度の授業アンケートの質問項目の見直しや全教科での授業アンケートの実施について検討した。</li> </ul>	
<p>ウ 卒業・修了認定 51 教育の質の保証を担保するため、成績評価基準を常に検証し、必要に応じて改善する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価基準を検証し、必要に応じて改善する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術学部では、より適切な成績評価を行うためにカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーをよりわかりやすく見直すとともに、シラバスのより具体的な成績評価基準の記載について引き続き周知した。音楽学部では、実技の授業における配点や曲目の見直しなど、必要に応じた改善を図った。</li> </ul>	

<p>52 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）に基づき適正に卒業認定を行い、卒業制作・卒業演奏など対外的な公表を積極的に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対外的な発表・PRの機会である卒業・修了制作展、卒業試験・修士演奏などを効果的・積極的に実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業・修了制作展では、優秀作品一覧の掲示、学生による作品解説・ギャラリートーク、美術関係者との交流会を引き続き実施するとともに、今年度から新たに卒業・修了作品集の一般への頒布を開始し、学外への積極的な発信に努めた。卒業演奏会・大学院学生によるコンサートについては、折込チラシの配布エリア・部数等の見直しなど積極的な広報を行った上で、今年度も引き続き学外で実施したところ、来場者が前年度比約1.4倍と大幅に増加した。また、音楽学部・音楽研究科の一部においては、卒業試験・修士演奏・学位審査を公開した。</li> </ul> <p>【来場者・参加者数】</p> <table border="1" data-bbox="1210 726 1967 1045"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卒業・修了制作展</td> <td>4,580人</td> <td>4,842人</td> <td>4,865人</td> </tr> <tr> <td>美術関係者との交流会（うち学生数）</td> <td>64人 (26人)</td> <td>92人 (56人)</td> <td>80人 (50人)</td> </tr> <tr> <td>卒業演奏会・大学院学生によるコンサート</td> <td>1,169人</td> <td>1,222人</td> <td>1,742人</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	卒業・修了制作展	4,580人	4,842人	4,865人	美術関係者との交流会（うち学生数）	64人 (26人)	92人 (56人)	80人 (50人)	卒業演奏会・大学院学生によるコンサート	1,169人	1,222人	1,742人	
	25年度	26年度	27年度																
卒業・修了制作展	4,580人	4,842人	4,865人																
美術関係者との交流会（うち学生数）	64人 (26人)	92人 (56人)	80人 (50人)																
卒業演奏会・大学院学生によるコンサート	1,169人	1,222人	1,742人																
<p>エ 学生への支援</p> <p>53 制作環境や練習環境など学生の学習環境を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本画制作室への床暖房の試験導入、石彫室の制作環境改善など、学生の学習環境整備を図る。</li> <li>・昨年度策定した図書館のサービス改善策に基づき、新たなサービスを開始するとともに、所蔵資料等の問題点を改善する。</li> <li>・教養・語学分野などの図書充実を引き続き図るとともに、学生の利用及び授業での活用を促進する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本画制作室への床暖房の設置、石彫室への集塵機・カーテンの設置など、学習環境の整備を行った。</li> <li>・昨年度策定した改善策に基づき、学部生への図書貸出冊数を3点以内から5点以内に変更するなど貸出冊数・期間を見直すとともに、卒業生への貸出も開始した結果、貸出冊数は10,998冊（H26）から13,367冊（H27・うち卒業生341冊）へと大幅に増加した。また、買い替えが必要な汚破損楽譜等の調査を完了し、計画的整備に着手した。</li> <li>・「就職図書コーナー」を設置するとともに、教員推薦・学生要望に基づく語学資料の購入等を行った。昨年度設置した「語学学習コーナー」の利用促進のため、授業で学生に積極的な活用を周知した。</li> </ul>																	

<p>54 留学に関する支援体制を整備するとともに、留学情報の発信に努め、学生の国際的な芸術教育や展覧会・演奏会などの活動を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流室による留学に関する総合サポートを充実する。</li> <li>・国際交流に関する情報発信を英語で実施するなど、情報発信を強化・充実する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度稼働を開始した「国際交流室」において、専任職員が個別相談・書類の翻訳補助・語学学習アドバイス等きめ細やかなサポートを行い、学生の海外渡航・留学を支援した。(国際交流室新規訪問者数 H26:100 人→H27:65 人)</li> <li>・英語による大学紹介パンフレットの更新や派遣・受入留学生による留学報告のホームページへの掲載などを行うとともに、留学ガイドブックを新たに作成し、国際交流に関する情報発信の強化・充実を図った。</li> </ul> <p>[データ集10]</p>	
<p>55 在学生から卒業生まで幅広く、就職支援や資格情報の提供を充実させ、学生の将来の目標、将来設計を啓発し、卒業後の自立に向けた支援をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部3年進級時、大学院では入学時に、教員が進路相談の個別面談を行い、将来の進路について自覚を促す。</li> <li>・効果的な就職ガイダンス開催など、就職希望者への情報提供の充実を図る。</li> </ul>	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各専攻において進学も含めた進路相談を継続するとともに、学部3年生、大学院1年生を対象とした進路希望調査を今年度初めて試行するなど、将来の進路について自覚を促す取り組みを実施した。</li> <li>・「ポートフォリオ作成講座」やスタジオジブリの協力による「キャリア教育出張講座」など、より効果的な就職支援を実施した結果、ガイダンスの参加者数や窓口相談件数が大幅に増加した。</li> <li>・デザイン職採用企業等の企業説明会の充実を図るなど、企業や学生に積極的な働きかけを行った結果、大手企業も含めた内定へとつながった。(企業説明会企業数 H26:6 社→H27:11 社、参加人数 H26:85 人→H27:202 人)</li> <li>・愛知県の芸術系大学や芸術職採用企業への呼びかけ・調整を積極的に行った結果、県内芸術系6大学による「芸術学生のための合同企業説明会」[参考資料13](41社、学生411名参加(うち愛知芸大131名))の開催が初めて実現し、新聞・テレビ等メディアでも画期的な取組として取り上げられた。</li> </ul> <p>[データ集3]</p>	

	25年度	26年度	27年度
就職ガイダンス (参加者数)	19回 (333人)	27回 (529人)	29回 (607人)
教員採用試験説明会	2回	3回	2回
窓口相談	280回	195回	292回
職業適性検査	5回	5回	5回
学部就職内定率 (内定者数/就職希望者数)	88.4%	88.3%	88.6%

56 保健室や学生相談室の機能を強化し、学生の健康で安全なキャンパスライフを支援する。

- 定期健康診断を継続実施するとともに、メンタルケアを含む健康で安全なキャンパスライフの更なる支援策を検討する。

- 防災・交通教育を行い、防災・交通安全に対する意識を高める。

- 障害者差別解消法（28年4月施行）を踏まえた身体障がい学生への支援を検討する。

「年度計画を十分に実施している」

- 定期健康診断を継続して実施（受診率：90.9%）するとともに、学生相談件数の大幅な増加等に対応するため、28年度より学生相談支援要員1名を新たに配置することとした。

	25年度	26年度	27年度
臨床心理士による カウンセリング	延べ 152人	延べ 159人	延べ 263人

- 地震防災対応マニュアルの配布や、警察官による交通安全講習会、防災訓練を継続実施し、学生の意識を高めた。

- 障害者差別解消法を踏まえ、障がい学生等への支援体制の強化を図るため、学生相談支援要員1名を新たに配置することとした。

57 学生に対する経済的支援として、各種奨学金の情報提供を充実するとともに、大学独自の奨学金の拡充を図る。

- 各種奨学制度の情報を学生へ積極的に情報提供するとともに、大学独自の奨学金の拡充策を検討する。

「年度計画を十分に実施している」

- 各種奨学制度の情報を積極的に提供し、県立芸術大学卒として北野生涯教育振興会等の団体から引き続き助成を受けるとともに、奨学寄附金により学生の海外渡航を支援する新たな制度を創設するなど、大学独自の奨学金の拡充を図った。

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 2 愛知県立芸術大学  
 (2) 研究に関する目標

中期目標	世界レベルの質の高い研究や教員による芸術活動などを推進することにより、世界に発信する国際的な芸術文化を創造する拠点となることを目指す。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど									
58 専門性により特化した研究や海外提携校及び教育研究機関との交流により国際的に通用する質の高い研究を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>高野山金剛峯寺（高野町）所蔵応徳涅槃図、真長寺（岐阜市）所蔵の仏画など文化財の研究、調査、再現研究等を推進する。</li> <li>名古屋市博物館など文化財を収蔵する研究機関に対し連携研究の働きかけを行う。</li> <li>協定校及び教育研究機関等から教員を招聘し、講義やワークショップ等を実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応徳涅槃図の調査研究・模写制作を継続実施するとともに、真長寺所蔵仏画等12点の受託事業において、文化財の調査、研究を推進し、学会等における発表や研究成果報告としての年報の発行を行った。</li> <li>名古屋市博物館、愛知県美術館に対し、本学の文化財保存修復事業の説明を行うなど連携研究の働きかけを行った。名古屋城本丸御殿障壁画復元模写に関する依頼があり、研究・分析を行った。</li> <li>アーティスト・イン・レジデンス事業[参考資料10]を始めとした国際交流事業において、チェンマイ大学・カリフォルニア大学サンディエゴ校などの協定校始め海外の教育研究機関等から、美術分野2件5名、音楽分野3件4名の著名なアーティストを招聘し、合同コンサート、ワークショップ等を実施した。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[データ集9]</p>										
59 展覧会・演奏会など芸術家集団としての教員による芸術活動を推進し、その成果を世界に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>協定校及び教育研究機関等へ本学教員を派遣し、積極的な交流を図る。</li> </ul>	<p>「年度計画を上回って実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウズベキスタン国立美術工芸大学への訪問による協定・共同研究に向けた協議・交流の実施など、協定校等8大学への教員派遣（19名）により積極的な海外交流を図った。（H26:6大学18名）</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">派遣先 (※は協定校)</th> <th style="width: 25%;">派遣人数 (主な専攻等)</th> <th style="width: 50%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ウズベキスタン国立美術工芸大学</td> <td>6名 (デザイン)</td> <td>協定・共同研究等に向けた協議・交流、学長会議への参加等</td> </tr> <tr> <td>ウズベキスタン音楽院</td> <td>4名 (音楽学)</td> <td>相互交流に向けた協議・交流</td> </tr> </tbody> </table>	派遣先 (※は協定校)	派遣人数 (主な専攻等)	内容	ウズベキスタン国立美術工芸大学	6名 (デザイン)	協定・共同研究等に向けた協議・交流、学長会議への参加等	ウズベキスタン音楽院	4名 (音楽学)	相互交流に向けた協議・交流	
派遣先 (※は協定校)	派遣人数 (主な専攻等)	内容										
ウズベキスタン国立美術工芸大学	6名 (デザイン)	協定・共同研究等に向けた協議・交流、学長会議への参加等										
ウズベキスタン音楽院	4名 (音楽学)	相互交流に向けた協議・交流										

ボストン美術館芸術大学※	3名 (油画)	相互交流に向けた協議
ロンドン芸術大学※	2名 (油画)	相互交流に向けた協議、授業視察等
カリフォルニア大学サンディエゴ校※	1名 (作曲)	講義、交流演奏会
ソルボンヌ大学	1名 (音楽学)	相互交流に向けた協議・博士論文共同指導に関する調整等
ワイマール・フランツ・リスト音楽院※	1名 (管打楽器)	交流事業実施
サレルノ大学※	1名 (教養教育)	交流事業実施
計 (8 大学)	19 名	

・受託研究・受託事業等を積極的に推進するとともに、研究成果の周知を図る。

- ・「長久手市おもてなし看板デザイン」を始め、受託研究・共同研究 11 件、受託事業 11 件、その他補助金事業 10 件を推進した。
- ・文化財保存修復事業については、専用ホームページや案内リーフレット、年報等の作成による外部への積極的な発信や、一般向けの芸術講座[参考資料 1 5]における成果報告等を行った。また豊田市との和紙に関する共同研究については、東京、ニューヨークにおける展示を行うなど、積極的に研究成果の周知を図った。
- ・名古屋市美術館との共同研究の成果発表として、展覧会「北川民次の絵画技法」を企画し、常設展・ワークショップ等を実施した。
- ・名古屋フィルハーモニー交響楽団と創立 50 周年記念ポスター等のデザイン制作の受託や人材の相互活用・相互交流等に関する協定締結を行い、本学の美術・音楽両分野における芸術活動の積極的な発信や相互交流の促進へとつなげた。

	25 年度	26 年度	27 年度
受託研究・共同研究	5 件	9 件	11 件
受託事業	7 件	13 件	11 件
その他補助金事業	0 件	3 件	10 件
計	12 件	25 件	32 件

[データ集 5]

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代美術に関する展覧会や芸術資料館での収蔵品展等を継続的に実施し、本学における芸術活動を積極的に発信する。</li> <li>・「愛知県立芸術大学リポジトリ」の内容の充実、及び利用促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいちトリエンナーレ 2016 芸術大学連携プロジェクト[参考資料 1 2]として、本学主催の企画展「Multilayer」及び名古屋芸術大学、名古屋造形大学との三大学連携現代美術展「Sky Over I・II」を開催した。芸術資料館では、耐震工事の関係で収蔵品展の開催は取り止めたが、専攻別研究発表展等を継続的に実施した。また、損保ジャパン日本興亜美術館、札幌芸術の森美術館等に収蔵作品の貸し出しを行うなど、積極的に本学の芸術活動を発信した。</li> <li>・国立情報学研究所共用リポジトリシステム(JAIRO Cloud)を活用した「愛知県立芸術大学リポジトリ」への過去の紀要論文 235 件の登録・公開を行うとともに、学内広報等による利用促進を図った。</li> <li>・本学における芸術活動の発信と 50 周年記念事業の財源拡充のため、本学教員・卒業生等の出展作品(100 点)による”愛芸 50 オークション”を初めて開催し、テレビや新聞等に取り上げられ、開催期間中(7 日間)のサテライトギャラリーへの来場者数は 336 人、落札総額は 1,400 千円であった。 [参考資料 1 1]</li> </ul>																	
<p>60 科学研究費補助金及びその他の助成金について、申請件数の増加を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費及びその他の助成金について、内容周知・情報提供等をタイムリーに実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成金については月 1~2 回の情報発信や、特に問い合わせの多い分野に絞った情報提供を行うなど、積極的な周知に努めた。科学研究費補助金については、引き続き教授会にて申請働きかけや説明会への参加促進を図った。 [データ集 5・6]</li> </ul>																	
<p>61 (指標) 毎年度 20 件の申請を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20 件の申請を目指す。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 27 年度の申請件数は 49 件となり、目標を達成した。</li> </ul> <p>【科研費及び助成金申請状況】 ( ) は採択件数</p> <table border="1" data-bbox="1225 1541 1952 1871"> <thead> <tr> <th></th> <th>25 年度</th> <th>26 年度</th> <th>27 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>科学研究費補助金</td> <td>9 件 (3 件)</td> <td>10 件 (3 件)</td> <td>11 件 (3 件)</td> </tr> <tr> <td>その他助成金</td> <td>13 件 (3 件)</td> <td>15 件 (9 件)</td> <td>38 件 (18 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>22 件 (6 件)</td> <td>25 件 (12 件)</td> <td>49 件 (21 件)</td> </tr> </tbody> </table> <p>[データ集 5・6]</p>		25 年度	26 年度	27 年度	科学研究費補助金	9 件 (3 件)	10 件 (3 件)	11 件 (3 件)	その他助成金	13 件 (3 件)	15 件 (9 件)	38 件 (18 件)	合計	22 件 (6 件)	25 件 (12 件)	49 件 (21 件)	
	25 年度	26 年度	27 年度																
科学研究費補助金	9 件 (3 件)	10 件 (3 件)	11 件 (3 件)																
その他助成金	13 件 (3 件)	15 件 (9 件)	38 件 (18 件)																
合計	22 件 (6 件)	25 件 (12 件)	49 件 (21 件)																

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 2 愛知県立芸術大学  
 (3) 地域連携・貢献に関する目標

中期目標	地域の芸術文化を担い、支える人材の育成、県民が芸術に親しむ機会の創出など、愛知県や他の自治体、産業界、名古屋市立大学などの他大学、地域社会等との多様な連携を通じて、芸術文化の発展に貢献する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	評価委員会において確認した事項、進捗状況に関するコメントなど
62 愛知県や他の自治体、産業界、他大学、地域社会との連携を通じて、地域文化を担う人材を育成し、あいちトリエンナーレへの参画など地域の芸術文化の発展に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども、若者を対象とした講座の充実を図る。</li> <li>地域との連携により、演奏家や講師の派遣及び大学見学の受入等を行い、学校との交流を図る。</li> <li>出張演奏などアウトリーチ活動を充実させる。</li> <li>瀬戸焼産地での石膏技術研究など、地域に根ざした産学連携教育を実施する。</li> <li>国際芸術祭の本番年（2016）に向けた事業の企画に参画する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「愛知芸大芸術講座」において、「リニモのデザイン」、「打楽器音楽をつくって聴こう」など子ども向けの4講座（参加者：142人）、「弦楽合奏セミナー」など若者を含む一般向けの21講座（参加者：1,847人）を実施した。 [参考資料15] [データ集7]</li> <li>設楽町立名倉小学校での「山の小学校の演奏会」の実施や日進西中学校における演奏指導など、小中学校等への演奏派遣・講師派遣を行った。また、高校4校の大学見学の受け入れを行った。 [データ集9]</li> <li>アウトリーチ活動として、一宮市民会館における「管弦楽団特別演奏会」や岡崎市シビックセンターにおける「音楽大学シリーズ2015」等の出張演奏を実施した。 [データ集9]</li> <li>引き続き、瀬戸市産業課との連携による陶磁器産業技術に関する後継者育成事業として、セラミックデザインコースの学生を中心とした9名を対象に、技術講習会に向けた事前指導、講習会への参加、陶磁専攻展での展示発表を行った。</li> <li>一般財団法人神戸財団と本学セラミックデザインコースとの共催による、陶磁器関連産業の活性化及び人材育成のためのセラミックデザインコンペティション[参考資料14]の企画・運営を行い、一次募集を行った結果、約200名の応募があった。</li> <li>あいちトリエンナーレ2016 芸術大学連携プロジェクト[参考資料12]として、本学主催の展覧会「-MULTI LAYER-」及び</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長久手市との連携により、当該年度の卒業生・修了生を対象とする優秀学生顕彰（長久手市長賞）を共同運営する。</li> <li>・名古屋芸術大学、名古屋造形大学との連携により、現代アート交流展覧会を開催する。</li> </ul>	<p>名古屋芸術大学、名古屋造形大学との三大学合同展覧会「Sky Over I・II」を開催した。また、瀬戸内国際芸術祭の中間年企画「ART SETOUCHI」において、演奏会や公開授業等6件の企画を実施し、地域の芸術文化の発展に貢献した。</p> <p>[データ集9]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長久手市との共同運営による優秀学生顕彰（長久手市長賞）では、26年度受賞者による記念レクチャーコンサート及び陶磁作品展示を実施するとともに、27年度受賞者3名（美術2名、音楽1名）の受賞式を行った。</li> <li>・名古屋芸大、名古屋造形大との連携により3大学交流企画展「交差する表現/ D×Pressions 2015」を開催し、若手作家による多様な表現を内外に発信した。</li> <li>・愛知県公園緑地課との連携による公務員環境デザイン学習プログラム「環境デザイン夏期講座」、名古屋大学・椋山女学園大学等の他大学及び企業等との連携による学生と企業・行政を繋ぐ産学連携ワークショップ「具現化ソン」、東京芸術大学との作品交流展「技材変態展」等、自治体、産業界、他大学と連携した取組を積極的に実施した。</li> </ul>	
<p>63 美術館や博物館との連携による展覧会・演奏会の開催、栄のサテライトギャラリー及び豊田市藤沢アートハウスの活用などにより、県民が芸術に親しむ機会を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会・演奏会を通じた地域との交流を促進する。</li> </ul>	<p><b>「年度計画を十分に実施している」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創立50周年記念事業「直指天 芸術は森からはじまる」を実施するにあたり、「創立50周年記念式典・祝祭管弦楽団公演」、「創立50周年記念展示『芸術は森からはじまる』」、「創立50周年記念オペラ公演『ラ・ボエーム』」の3大事業をはじめ、県内各美術館等における専攻ごとの企画を立案するとともに、事業推進体制を整え、事業実施に向けた財源確保のための寄附金募集活動を積極的に実施した。</li> </ul> <p>[参考資料11]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市美術館との共同による展覧会「北川民次の絵画技法」やパティオ池鯉鮒（知立市文化会館）との連携による「オペラ公演」など、展覧会（H26:45件→H27:40件）、演奏会（H26:55件→H27:60件）、演奏派遣（H26:50件→H27:29件）を実施した。</li> </ul> <p>[データ集7・8・9]</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄のサテライトギャラリーの来訪者増に向け、より一層魅力的な集客力のある企画展や芸術講座を企画・実施する。豊田市藤沢アートハウスについては、豊田市美術館との更なる連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サテライトギャラリーにおいては、引き続き芸術講座[参考資料15]を開催するとともに、出展者によるアーティストトークや愛芸50オークションの開催など、集客力のある企画を実施した。藤沢アートハウスについては、利用状況や費用対効果を考慮した結果、27年度末をもって契約を終了することを決定したが、豊田市と新たな連携協定を締結し、豊田市美術館のリニューアルオープンイベントに本学学生・教員が参画するなど、更なる連携を図った。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[データ集8]</p>									
<p>64 (指標) 栄サテライトギャラリーの展覧会等入場者数について、平成30年度に4,000人を目指す。</p>		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティストトークや愛芸50オークションの実施により、今年度入場者数は、4,070人となり、4,000人の目標を引き続き上回った。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1240 772 1834 909"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サテライト入場者数</td> <td>3,622人</td> <td>4,346人</td> <td>4,070人</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">[データ集8]</p>		25年度	26年度	27年度	サテライト入場者数	3,622人	4,346人	4,070人	
	25年度	26年度	27年度								
サテライト入場者数	3,622人	4,346人	4,070人								
<p>65 文化財の研究調査、保存、修復、理論研究、再現研究等を推進するとともに、その運営体制等の事業プランを策定し、実現を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高野山金剛峯寺（高野町）所蔵応徳涅槃図、真長寺（岐阜市）所蔵の仏画の修復など保存事業を推進するとともに、日本画伝統材料研究を推進する。</li> <li>・文化財保存修復研究所施設の建設、事業推進体制の整備を図り、事業プランを策定する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応徳涅槃図の調査研究・模写制作及び真長寺所蔵仏画の修復を継続実施するとともに、伊東深水作絹本着色「爽涼」はじめ5点を新規受託するなど、文化財の調査、研究を推進した。また、「絵画表現における風土と技術-膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究-」を始め3件の科学研究費補助金による伝統的技法・材料研究を推進した。</li> <li>・文化財保存修復研究所を11月に竣工、供用開始するとともに、次年度に向けた事業プランを策定した。また、専用ホームページや案内リーフレット、年報等による情報発信や、研究所の取組発表として「絵画を守る一国宝から地方文化財まで」と題した一般向け講座の開催など、外部への積極的な周知を図った。</li> </ul>									

項目別の状況

第2 法人運営の改善に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

中期目標	大学法人を取り巻く厳しい競争的環境の下、競争力のある、魅力あふれる大学づくりのために、理事長及び学長のリーダーシップの下、教職員が一体となって、自主・自律的かつ弾力的・機動的な運営を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
66 自己決定・自己責任の原則の下で、法人経営及び教育研究に関わる法人運営についてPDCAを推進し、組織・業務運営の高度化・改善を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人経営及び教育研究に関わる法人運営について、27年度計画に基づき3C (Check, Change, Challenge) → P→D→3C、を推進する。</li> <li>法人経営においては、重点方針に基づき、各部チャレンジ計画として意欲的な目標を定め、積極的に取り組む。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進捗管理表を活用した年度計画の進捗確認等を10月末、12月末に実施する流れを定着化させ、年度計画の進捗状況及び課題に対し個別に適宜フォローを行いながら、挑戦的な取組も含めた次年度の計画及び予算の策定を完遂した。</li> <li>各部において掲げたチャレンジ計画を積極的に推進し、理事長・理事による進捗確認・追加指示を経て、2月の役員会において報告するなど、一連の3CPDサイクルを推進した。</li> </ul>	1	Ⅲ		
67 理事長及び学長のリーダーシップの下で、誰もが誇りに思う大学づくりに向け、予算配分や人員配置などについて計画的な資源配分を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度計画を軸にした予算編成の実施により、事業の見直しによる財源捻出と重点事業への再配分を促進する。</li> <li>学長のトップマネジメントを支えるため、情報収集や施策提言等を担う「将来構想室」を県大に設置する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度計画・チャレンジ計画等を踏まえて、事業見直し等により捻出した財源をもとに新規・増額事業の要望を新たに募るなど、メリハリの利いた資源配分を行った。</li> <li>法人全体の事業予算内容を確認するため、法人化後初の取組として、全事業に対する事業計画書の提出依頼、全部署・教員へのヒアリングを行い、事業の見直しによる財源捻出と重点事業への再配分を実施した。</li> <li>学長のトップマネジメントを支えるため、4月より「将来構想室」を県立大学に新設し、新たに将来構想担当副学長（将来構想室長）及び室員2名を配置した。基礎的データ・情報等の収集を行うとともに、大学幹部会・将来ビジョン検討委員会の事務局として機能した。また、学長の指示する個別事案にも適宜対応した。（「将来構想室」は、28年4月より「戦略企画室」に改称。）</li> </ul>	1	Ⅲ		

68 (指標) 毎年度、事業費予算の10%のスクラップアンドビルドを目指す。		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <p>事業費予算の23.5%についてスクラップアンドビルドを実施した。</p> <p>H28 廃止・見直し事業費/H27 事業費予算 = (728 百万円)/(3,098 百万円) = 23.5%</p>	1	Ⅲ		
69 より効果的かつ円滑な組織運営に向け、大学組織及び事務組織の体制見直し・整備などを適時適切に検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学改革を推進するため、ビジョンや改革の方向性等を検討・決定する「大学幹部会」を県大に設置する。</li> <li>仕事の進め方の見直しなどにより、組織のスリム化案を検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県立大学において、学長・2副学長・5学部長・事務部門長を構成員とした「大学幹部会」を8回、各センター長を加えた「将来ビジョン検討委員会」を3回実施し、大学全体及び各学部・研究科の状況や課題を確認するとともに共通認識を醸成し、学長のリーダーシップのもと議論を進め、大学改革の基本的な方向性を決定した。</li> <li>組織のスリム化に先立ち、組織・職員像の構築及び人事制度等の確立を図るため、専門業者によるコンサルティングの実施方法・体制等について検討を進めた。</li> </ul>	1	Ⅲ		

(ウエイト付けの理由)

**第2 法人運営の改善に関する目標**  
2 人材の確保・育成に関する目標

中期目標	教員・職員の一人ひとりが、県民の期待に応え、信頼され、高い評価を受けられるよう、人事諸制度の適切な運営を推進する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウエイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
70 教員については、その意欲を高め、能力を発揮し、教育研究や大学運営の質的向上につながるよう、公募制、人事評価制度など、適切な運用・改善を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の採用は、公募採用を原則とする。</li> <li>教員評価機関による人事評価を実施するなど、人事給与制度を適切に運営するとともに、必要に応じて評価方法等の見直しを行う。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県立大学では18名、芸術大学では2名の教員を公募で採用した。</li> <li>各教員が実施した自己点検・自己評価の内容をもとに、教員人事評価委員会（県大）及び教員評価委員会（芸大）において評価を行い、次年度の昇給に反映した。</li> </ul>	1	Ⅲ		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員人材育成モデルの推進に向けて検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員人材育成モデルに基づき、副学長及びセンター長の人事を決定した。また、基礎資料となる役職・委員等のデータベースを作成した。</li> </ul>																				
71 職員については、愛知県の派遣職員から法人固有職員への切り替えを進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～5人程度を固有職員化する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・27年度中に、固有職員15名を採用し、固有職員化を進めた。</li> </ul>	1	Ⅲ																		
72 (指標) 平成30年度末時点で法人固有職員比率70%を目指す。		<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人固有職員比率が27年度末時点で73.1%となり、30年度末時点の目標としていた70%を前倒しで上回った。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度末</th> <th>26年度末</th> <th>27年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固有職員数</td> <td>59人</td> <td>64人</td> <td>79人</td> </tr> <tr> <td>正規職員総数</td> <td>105人</td> <td>101人</td> <td>108人</td> </tr> <tr> <td>比率</td> <td>56.2%</td> <td>63.4%</td> <td>73.1%</td> </tr> </tbody> </table>		25年度末	26年度末	27年度末	固有職員数	59人	64人	79人	正規職員総数	105人	101人	108人	比率	56.2%	63.4%	73.1%	1	Ⅲ		
	25年度末	26年度末	27年度末																			
固有職員数	59人	64人	79人																			
正規職員総数	105人	101人	108人																			
比率	56.2%	63.4%	73.1%																			
73 また、組織力を高めるため、職員の資質向上のための組織的な取組(スタッフ・ディベロップメント(SD))など、計画的な人材育成により職員のプロフェッショナル化を推進するとともに、人事制度の適切な運用・改善を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あるべき役職者像に基づく研修体系・制度案を策定する。</li> <li>・グローバル人材育成推進事業推進のため、語学力の高い職員を配置するとともに、「職員英語力向上制度」により、語学力の高い職員を育成する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短期海外研修の試行や課長職対象研修の新設など、研修制度の見直しを行いつつ、研修体系案を策定した。また、今後のさらなる見直しに向け、他大学の研修に関する情報収集や専門業者によるコンサルティングの導入検討を行った。</li> <li>・「職員英語力向上制度」[参考資料16]による講座(5名)や今年度初めての試みとなる短期海外研修(4名、派遣先：中国・モンゴル・タイ)を実施した。</li> </ul>	1	Ⅲ																		

(ウエイト付けの理由)

第2 法人運営の改善に関する目標  
3 効率的・合理的な業務執行に関する目標

中期目標 より効率的、機動的な組織運営、教育研究のサポート機能の向上のため、仕事を見直し、効率的・合理的な業務執行を推進する。

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
74 職員の意識改革と仕事の見直しを行い、効率的・合理的な業務執行を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点方針に基づくチャレンジ計画について、発表会や進捗状況報告会を開催し、職員が同一方向性のもとに効率的・合理的な業務運営に取り組むよう、法人・大学の運営方針等を職員に周知する。</li> <li>仕事の進め方の見直し等により、組織のスリム化案を検討する。</li> <li>旅費事務について、アウトソーシング等の合理化策を検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>27年度重点方針・チャレンジ計画発表会を3キャンパスで開催し、法人・大学の運用方針等について職員に周知するとともに、意識の共有化を図った。</li> <li>組織のスリム化に先立ち、組織・職員像の構築及び人事制度等の確立を図るため、専門業者によるコンサルティングの実施方法・体制等について検討を進めた。</li> <li>旅費システムの改良により、事務の効率化を図った。また、旅費事務のアウトソーシングについて、他大学における旅費システムの導入状況を確認するとともに、アウトソーシング化の方法・予算、システムの利便性、経費削減方策等を検討した結果、当法人の規模ではコストの増大が生じることが判明したため、導入しないこととした。</li> </ul>	1	Ⅲ		
75 一層の業務システム化を目指すとともに、各種システムの統合的な管理を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育研究及び事務の効率化を図るため、情報課において各所属の情報システム整備・更新を支援する。</li> <li>各種システムの統合的管理に向け、基盤ネットワーク更改及び端末一括管理システム導入にかかる仕様を策定する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報課において、芸術大学のコンピューター室のパソコン更新や28年度実施予定の財務会計システムの更新・整備に向けた必要な支援等を行った。</li> <li>基盤ネットワーク更改及び端末一括管理システムの導入に向け、次期情報システムのグランドデザインを策定した上で、必要な機能・セキュリティ要件と予算規模を踏まえ仕様を策定した。基盤ネットワークについては、プロポーザル方式により業者を決定した。</li> </ul>	1	Ⅲ		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度改定に伴い、人事給与システムを改修する。また、更なる事務の効率化に向け、旅費システムを改良する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度改定に伴う人事給与システムの改修や事務の効率化に向けた旅費システムの改良を実施した。</li> </ul>				
--	---	---	--	--	--	--

(ウェイト付けの理由)

### 第3 財務内容の改善に関する目標

中期目標	一定のルールに基づく運営費交付金を主な財源としつつ、外部研究資金、寄附金その他の自主財源の確保や、効率的な運営による管理的経費の抑制などにより、経営基盤を強化し、安定的な財務運営を実現する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
76 法人運営の安定性と自律性を確保するため、外部研究資金、寄附金等自己収入の増加に向けた取り組みを強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費等の外部資金申請情報の集約と周知、申請のための研修会などを企画・実施する。</li> <li>・寄附講座として、本学教員及び外部講師による全学向けのアジア研究講座を開講する。(県大)</li> <li>・芸大創立 50 周年記念事業募金“愛芸 50 基金”の獲得に努める。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部資金公募情報の定期的なメール配信、ホームページへの掲載や、問い合わせの多い分野に絞った情報提供を行うなど、全教員への周知を図るとともに、大学の研究や外部資金申請支援事業を主としたコンサルタント業者による講習会や個別相談等を新たに実施した。</li> <li>・一般財団法人ワンアジア財団の助成金による寄附講座最終年度として、前期教養科目「県大エッセンシャルA」を実施するとともに、外部有識者を招いた公開シンポジウムを実施し、成果報告書を取りまとめた。</li> <li>・創立 50 周年記念事業募金“愛芸 50 基金”の募金趣意書を作成し、卒業生・大学関係者はもとより、広く企業・団体及び個人にアプローチするとともに、クレジットカード募金を可能とするシステム (F-REGI) の導入や学生・教員等の作品による「愛芸 50 オークション」の実施等、様々な取組を行った結果、27 年度寄附金総額は約 56 百万円に到達した。</li> </ul> <p style="text-align: right;">[参考資料 1 1]</p>	1	Ⅲ		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学が実施する事業に対する助成の申請を行う。(芸大)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術大学が実施する事業として、外部機関への助成申請を19件(H26:4件)行い、青山財団に申請した「創立50周年祝祭管弦楽団演奏会」など6件が採択された。</li> </ul> <p>【27年度2大学外部資金獲得状況】</p> <table border="1" data-bbox="1113 415 1834 877"> <thead> <tr> <th></th> <th>県立大学</th> <th>芸術大学</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>奨学寄附金</td> <td>11件(9,200千円)</td> <td>426件(36,421千円)</td> </tr> <tr> <td>(うち愛芸50基金)</td> <td>—</td> <td>293件(25,393千円)</td> </tr> <tr> <td>(うち愛芸77基金)</td> <td>—</td> <td>129件(7,943千円)</td> </tr> <tr> <td>受託研究費</td> <td>5件(5,446千円)</td> <td>10件(12,139千円)</td> </tr> <tr> <td>共同研究費</td> <td>12件(11,090千円)</td> <td>1件(2,500千円)</td> </tr> <tr> <td>科研費補助金等</td> <td>149件(130,071千円)</td> <td>11件(13,433千円)</td> </tr> <tr> <td>受託事業費等</td> <td>3件(3,556千円)</td> <td>11件(13,997千円)</td> </tr> <tr> <td>その他補助金</td> <td>5件(67,976千円)</td> <td>10件(3,540千円)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>185件(227,339千円)</td> <td>469件(82,030千円)</td> </tr> </tbody> </table> <p>[データ集5]</p>		県立大学	芸術大学	奨学寄附金	11件(9,200千円)	426件(36,421千円)	(うち愛芸50基金)	—	293件(25,393千円)	(うち愛芸77基金)	—	129件(7,943千円)	受託研究費	5件(5,446千円)	10件(12,139千円)	共同研究費	12件(11,090千円)	1件(2,500千円)	科研費補助金等	149件(130,071千円)	11件(13,433千円)	受託事業費等	3件(3,556千円)	11件(13,997千円)	その他補助金	5件(67,976千円)	10件(3,540千円)	計	185件(227,339千円)	469件(82,030千円)				
	県立大学	芸術大学																																		
奨学寄附金	11件(9,200千円)	426件(36,421千円)																																		
(うち愛芸50基金)	—	293件(25,393千円)																																		
(うち愛芸77基金)	—	129件(7,943千円)																																		
受託研究費	5件(5,446千円)	10件(12,139千円)																																		
共同研究費	12件(11,090千円)	1件(2,500千円)																																		
科研費補助金等	149件(130,071千円)	11件(13,433千円)																																		
受託事業費等	3件(3,556千円)	11件(13,997千円)																																		
その他補助金	5件(67,976千円)	10件(3,540千円)																																		
計	185件(227,339千円)	469件(82,030千円)																																		
<p>77 効率的、効果的な管理的経費の執行に努めるとともに、業務の見直しによる経費抑制を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約事務の改善による業務の効率化を図る。</li> <li>施設・設備の新設・改修にあたっては、省エネルギー型設備の導入を推進する。</li> <li>芸大ECOプロジェクトの成果を踏まえ、芸大における省エネ活動を継続するとともに、県大における省エネ・省電力化を検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検討を要した案件に基づき事例集を作成し、事務手続きの基本方針として契約課内に周知徹底することにより、業務の円滑化を図った。また、新規採用教職員向けの購買手続きに関する研修や予算担当者向けの予算執行全般に関する説明会を行うなど、円滑な契約事務に向けた周知に努めた。</li> <li>省エネ・省電力化の観点から、大学各所においてLED照明や空調等の最新設備の導入を進めた。新たに設立した文化財保存修復研究所及び次世代ロボット研究所では、建物断熱を強化するとともに、LED照明・床暖房・サーキュレーター等の設備を導入した。</li> <li>芸大ではECOプロジェクトにおいて新たな課題等に継続して取り組んだ。県大長久手キャンパスにおいても外部アドバイザーのもとでECOプロジェクトを開始し、電力使用量の多い建物(C棟)や図書館閉架書庫の温湿度管理等に関する調査・検討を行い、施設改修や運用見直しにつなげた。</li> </ul>	1	Ⅲ																																

78 (指標) 一般管理費比率について 対前年度比減を目指す。 ※一般管理費比率＝一般管理費／(業務費＋ 一般管理費) (特殊要因除き)		「年度計画を十分に実施している」 ・施設の整備・修繕などにかかる経費の減少により、一般管理費比率は7.1%となり、対前年度比減を達成した。	1	Ⅲ				
							26年度	27年度
		業務費					6,944,692千円	6,919,239千円
		一般管理費					622,653千円	532,722千円
		(うち特殊要因)					53,218千円	—
		(うち上記以外)					569,435千円	—
		一般管理費比率					8.2%	7.1%
		(特殊要因除き)					7.6%	—
		一般管理費比率＝一般管理費／(業務費＋一般管理費) (特殊要因除き) ※金額については、千円未満切り捨て						

(ウェイト付けの理由)

第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

中期目標	自己点検・自己評価や外部評価等を定期的に行うとともに、評価結果を積極的に公表し、教育研究及び業務運営の継続的な改善に結び付ける。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
79 中期計画・年度計画に対する自己点検・自己評価、認証評価等の外部評価を定期的実施し、評価結果を速やかに公表するとともに、教育研究及び業務運営の改善に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期計画・年度計画に対する自己点検・評価の実施により、教育研究及び業務運営の改善を推進する。</li> <li>芸大において、研究活動・芸術活動にかかる外部評価を実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>26年度業務実績評価について、年度計画自己点検委員会(県大)、年度計画検討会(芸大)、教育研究審議会等で周知し、改善すべき点などについて確認した。26年度評価結果及び27年度計画の中間フォローを踏まえ、28年度計画を策定し、業務運営の改善を推進した。</li> <li>芸術大学の外部評価については、個別の評価ではなく大学全体の認証評価(29年度実施)に向けた取組を早期から開始することとし、実行委員会を立ち上げ、情報収集、検討を進めた。</li> </ul>	1	Ⅲ		

(ウェイト付けの理由)

第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標  
2 情報公開等の推進に関する目標

中期目標	大学の教育研究の実績や法人の業務運営等の情報を公表し、県民への説明責任を果たすとともに、戦略的・効果的な広報活動を展開し、大学の知名度を高める。
------	--

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
80 大学・法人の活動情報を積極的に発信し、県民への説明責任を果たすとともに、大学のブランド・知名度の向上に向けた戦略的な広報活動を展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動計画に基づき、志願者・学生・卒業生・県民・企業等に対する広報活動を積極的に実施する。</li> <li>・グローバル人材育成事業など特色ある教育研究活動を積極的に発信する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校訪問・大学ガイダンスへの参加を継続するとともに、ホームページのリニューアル（芸大）や学部別ミニ・オープンキャンパス（県大）の新たな実施など、積極的な広報活動に努めた。</li> <li>・グローバル人材育成事業については、愛知大学と共同で「西日本第1ブロック共同シンポジウム『地域に根ざしたグローバル人材とは』」を開催した。また、県立大学・NPO法人・地元のものづくり企業による産民学協働プロジェクト「あいちものづくり・学生共同プロジェクト」[参考資料17]の推進や、芸術大学の文化財保存修復研究所による活動をテーマとした一般向け講座の実施など、特色ある教育研究活動を積極的に発信した。</li> </ul>	1	Ⅲ		
81 平成28年度に迎える芸術大学創立50周年に際し、県民をはじめ多くの人々にとって芸術大学がより身近な存在となるよう、記念事業を企画し、実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年に迎える芸大創立50周年記念事業の実施計画を確定し、県民等へのPR活動を実施する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「記念式典・祝祭管弦楽団公演」、「記念展示 芸術は森からはじまる」、「記念オペラ公演」の3大記念事業をはじめとする創立50周年記念事業を企画し、準備を進めた。また、創立50周年記念事業ポスター・各種チラシ等の作成・関係各所への送付、新聞社・放送局へのPR訪問、さらには教員等の作品による「愛芸50オークション」、ホームカミングデーなども実施するなど、県民等への積極的なPR活動を行った。</li> </ul> <p>[参考資料11]</p>	1	Ⅲ		

(ウェイト付けの理由)

第5 その他業務運営に関する重要目標

1 施設・設備の活用及び安全管理に関する目標

中期目標	大学施設を良好で安全安心な教育研究環境に保つため、施設の機能保全及び維持管理を計画的に実施するとともに、学生の安全確保、防災対策等の危機管理体制を強化する。 また、大学の施設を開放し、豊かな地域社会づくりに寄与する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウェイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
82 良好で安心安全な教育研究環境を維持するため、施設・設備の点検を定期的実施するとともに、緊急対応が必要なものについて改修・修繕を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備の機能を点検し、緊急度の高いものに対応する。</li> <li>県大にかかる施設・設備改修計画に基づき、整備方法等を検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>随時施設・設備の機能点検を実施し、長久手キャンパスの屋上漏水修繕や守山キャンパスの設備用中央監視装置の更新、冷温水発生機の整備等、緊急度の高いものに迅速に対応した。</li> <li>今後の整備を進めるにあたり、イニシャルコスト、ランニングコスト、LCC（ライフサイクルコスト）を総合的に勘案した上で整備方法を策定する基本的な考え方を確認した。</li> </ul>	1	Ⅲ		
83 芸術大学の老朽化施設・設備の整備について、耐震改修基本調査の結果を踏まえながら、愛知県の施設整備計画の策定に向け、県と共に引き続き検討を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛知県が実施する耐震改修・機能回復整備工事及び新デザイン棟基本設計に協力する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>愛知県及び施工業者との綿密な調整のもと、耐震改修・機能回復整備工事が9月から開始された。また、新デザイン棟の基本設計については、美術学部教員が中心に、愛知県・設計事務所と定期的に打ち合わせを行うなど積極的に協力した。</li> </ul>	1	Ⅲ		
84 大規模災害に備えた安全対策、防災対策などの充実を図り、訓練等の実践を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理推進要綱等に基づくマニュアル等の整備・見直しを進めるとともに、訓練等を実施する。</li> <li>大規模災害の発生に備え、備蓄計画に基づき、計画的に物品等の配備を行う。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震対応マニュアル等を一部見直したうえ学生・教職員に配布するとともに、防災訓練・AED講習会を実施し、大規模災害に備えた対策を行った。</li> <li>県立大学では、3か年計画に基づき備蓄品の配備を完了した。芸術大学では、耐震改修工事の終了時期を見計らい、29年度の配備に向け、備蓄品の保管場所・種類・数量・予算等の検討を進めることとした。</li> </ul>	1	Ⅲ		

85 学内の施設の利用状況を踏まえ、大学施設を積極的に地域社会に開放する。	・県大の施設について、外部への貸出を継続するとともに、運用上の課題を整理する。	「年度計画を十分に実施している」 ・県大グラウンドの貸出を継続実施するとともに、愛知県に対して教室を試験会場として有償で貸し出すことを試行し、今後の外部への教室等の貸出について検討した。	1	Ⅲ		
---------------------------------------	---	--	---	---	--	--

(ウエイト付けの理由)

**第5 その他業務運営に関する重要目標**  
**2 社会的責任及び法令遵守に関する目標**

中期目標	人権の尊重、環境への配慮など、社会的責任に十分留意した教育研究環境の実現や、教育研究等の諸活動に係る法令等の的確な遵守のための取組を推進する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の実施状況等	ウエイト	評価		評価委員会の判断理由、コメントなど
				自己評価	委員会評価	
86 人権の尊重、環境への配慮など、社会的責任に留意した教育研究環境を実現するため、教職員・学生への研修や啓発活動などにより意識向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員及び学生を対象とした人権・ハラスメント研修を継続して実施するとともに、必要に応じて関係規程等を見直す。</li> <li>・人事課タスクサポート（仮称）を新たに設置し、障害者の雇用を促進する。</li> <li>・長久手キャンパスにおいて、屋根貸しによる太陽光発電事業を開始する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に新規採用職員を対象とした「人権、倫理、ハラスメント研修」（29名参加）や教職員向けのハラスメント防止のための啓発研修会（県大：203名参加、芸大：40名参加）、芸術大学の学生向け「ハラスメントの防止等研修会」（37名参加）を実施した。県立大学では、学生に対するハラスメント研修をeラーニングにより実施することを決定し、28年度からの導入に向け検討を進めた。</li> <li>・障害者雇用促進のため、7月から「業務支援室」を新たに設置し、1名のリーダーを含む7名を雇用した。</li> <li>・昨年度決定した民間業者への屋根貸しによる太陽光発電事業について、6月から工事に着手し、10月に発電を開始した。</li> </ul>	1	Ⅲ		

<p>87 法令遵守を推進するため、倫理関係諸規程についての継続的な研修や意識啓発に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や倫理審査関係委員会を開催するとともに、コンプライアンス推進体制を強化する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員向けに研究費不正使用防止・研究活動不正防止講習会（県大 191 名、芸大 50 名参加）を開催し、欠席者には理解度チェックリストの提出を義務付けた。全職員向けには e ラーニングによるコンプライアンス研修を実施した。また、両大学において「研究活動の不正行為に関する取扱規程」の一部改正を行うとともに、県立大学では研究倫理審査委員会（全 11 回）の開催、「研究に係る試料及び資料等の保管及び廃棄に関する手順書」の策定を行った。</li> </ul>	<p>1</p>	<p>Ⅲ</p>		
<p>88 情報管理の強化に向け、情報セキュリティ対策を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の情報リテラシー向上のため、研修等を実施する。</li> <li>・情報セキュリティ対策を強化するため、ネットワーク更新の仕様を策定するとともに、運用体制のあり方について検討する。</li> </ul>	<p>「年度計画を十分に実施している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員・学生を対象に、情報リテラシー講習会や e ラーニングによる情報リテラシー研修を実施し、情報リテラシーの向上に努めた。</li> <li>・次期ネットワークの整備に向け、セキュリティ対策を含む仕様について検討した結果、現状機能に準拠した仕様による更新を決定した。また、ウイルス対策を強化するなど、情報セキュリティ対策を推進した。</li> </ul>	<p>1</p>	<p>Ⅲ</p>		

(ウェイト付けの理由)

**第6 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画**

※ 財務諸表及び決算報告書を参照

**第7 短期借入金の限度額**

中期計画	年度計画	実績
1 短期借入金の限度額 1.2億円	1 短期借入金の限度額 1.2億円	該当なし
2 想定される理由 事故の発生等により緊急に必要となる対策費として 借り入れすることも想定される。	2 想定される理由 事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れする ことも想定される。	

**第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画**

中期計画	年度計画	実績
予定なし	予定なし	該当なし

**第9 剰余金の使途**

中期計画	年度計画	実績
決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質 の向上及び組織運営の改善に充てる。	・決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組 織運営の改善に充てる。	・中央監視装置の更新（県大守山キャンパス）、県大次世代ロボット研究所関連 設備の整備等に剰余金を充当。

**第10 施設・設備に関する計画**

中期計画		年度計画	実績			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設・設備の内容</th> <th>財源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中期計画の達成に必要な施設・設備の整備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等</td> <td>教育研究環境整備等積立金、その他自己収入等</td> </tr> </tbody> </table>	施設・設備の内容	財源	中期計画の達成に必要な施設・設備の整備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等	教育研究環境整備等積立金、その他自己収入等	<b>施設及び設備に関する計画</b> ・モビリティ・ロボット研究所棟（仮称）建設工事等 490,087 千円（県大） ・文化財保存修復研究所棟建設工事等 126,795 千円（芸大）	<b>施設及び設備に関する計画</b> ・次世代ロボット研究所棟建設工事等 493,985 千円（県大） ・文化財保存修復研究所棟建設工事等 123,723 千円（芸大）
施設・設備の内容	財源					
中期計画の達成に必要な施設・設備の整備及び経年劣化が著しく、緊急対応が必要な施設・設備の改修等	教育研究環境整備等積立金、その他自己収入等					
注) 中期目標を達成するために必要な業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や老朽化度合い等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもある。 注) 額については、各事業年度の予算編成過程等において決定される。						

○計画の実施状況等

**第11 人事に関する計画**

中期計画	年度計画	実績
教育研究機能を始めとする大学の諸機能の充実と活性化並びに法人運営の効率化を進めるための人事制度を運用する。 中期目標を達成するための措置に掲げる人事諸制度の事項について、着実に取り組む。	・中期計画に掲げる人事制度の事項について、着実に取り組む。	「計画の実施状況等」を参照

**第12 積立金の使途**

中期計画	年度計画	実績
前中期目標期間繰越積立金については、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	・前中期目標期間繰越積立金については、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	・県大次世代ロボット研究所棟及び芸大文化財保存修復研究所棟の建設に充当。

平成27年度 学部、研究科の定員充足率(H27.5.1現在)

大学名	学部の学科、研究科の専攻名	収容定員		在籍者数 (新・旧合計)		収容定員充足率 (b)/(a)*100 (%)
		(a)	(名)	(b)	(名)	
(新・旧) 県立大学	外国語学部		1,360	1,679		123.5
	英米学科		400	480		120
	ヨーロッパ学科		585	722		123.4
	フランス語圏専攻		195	238		122.1
	スペイン語圏専攻		195	240		123.1
	ドイツ語圏専攻		195	244		125.1
	中国学科		200	249		124.5
	国際関係学科		175	228		130.3
	日本文化学部		400	456		114
	国語国文学科		200	232		116
	歴史文化学科		200	224		112
	教育福祉学部		360	391		108.6
	教育発達学科		160	170		106.3
	社会福祉学科		200	221		110.5
	看護学部		360	368		102.2
	看護学科		360	368		102.2
	情報科学部		360	389		108.1
	情報科学科		360	389		108.1
	学部合計		2,840	3,283		115.6
	国際文化研究科		50	44		88
	博士前期 国際文化専攻		25	20		80
	博士前期 日本文化専攻		9	11		122.2
	博士後期 国際文化専攻		10	8		80
	博士後期 日本文化専攻		6	5		83.3
	人間発達学研究科		29	40		137.9
	博士前期 人間発達学専攻		20	29		145
	博士後期 人間発達学専攻		9	11		122.2
	看護学研究科		54	55		101.9
	博士前期 看護学専攻		42	37		88.1
	博士後期 看護学専攻		12	18		150
	情報科学研究科		75	80		106.7
	博士前期 情報システム専攻		20	24		120
	博士前期 メディア情報専攻		20	20		100
博士前期 システム科学専攻		20	22		110	
博士後期 情報科学専攻		15	14		93.3	
大学院合計		208	219		105.3	

【参考】旧県立大学在籍者数

大学名	学部の学科、研究科の専攻名	在籍者数 (名)
(旧) 県立大学	文学部	4
	国文学科	1
	英文学科	2
	日本文化学科	1
	児童教育学科	0
	社会福祉学科	0
	外国語学部	3
	英米学科	0
	フランス学科	0
	スペイン学科	1
	ドイツ学科	2
	中国学科	0
	文学部	4
	国文学科	1
	英文学科	1
	日本文化学科	2
	児童教育学科	0
	社会福祉学科	0
	外国語学部	3
	英米学科	1
	フランス学科	1
	スペイン学科	0
	ドイツ学科	1
	中国学科	0
	情報科学部	0
	情報システム学科	0
	地域情報科学科	0
	昼間主計	7
	夜間主計	7
	学部計	14
	国際文化研究科 前期 国際文化専攻	0
	国際文化研究科 後期 国際文化専攻	0
	情報科学研究科 前期 情報科学専攻	0
情報科学研究科 後期 情報科学専攻	0	
大学院合計	0	

看護大学	看護学部	看護学科	0
	看護学研究科	修士課程	0

平成27年度 学部、研究科の定員充足率(H27.5.1現在)

大学名	学部の学科、研究科の専攻名	収容定員	在籍数	収容定員充足率
		(a) (名)	(b) (名)	(b)/(a)*100 (%)
芸術大学	美術学部	380	397	104.5
	美術科	200	212	106
	日本画専攻	40	43	107.5
	油画専攻	100	104	104
	彫刻専攻	40	41	102.5
	芸術学専攻	20	24	120
	デザイン・工芸科	180	185	102.8
	デザイン専攻	140	147	105
	陶磁専攻	40	38	95
	音楽学部	400	414	103.5
	音楽科	400	414	103.5
	作曲専攻	40	46	115
	声楽専攻	120	118	98.3
	器楽専攻	240	250	104.2
	学部計	780	811	104
	美術研究科	95	102	107.4
	博士前期 美術専攻	80	88	110
博士後期 美術専攻	15	14	93.3	
音楽研究科	69	68	98.6	
博士前期 音楽専攻	60	60	100	
博士後期 音楽専攻	9	8	88.9	
大学院合計	164	170	103.7	